『人文学報』第119号（2022年６月）
（京都大学人文科学研究所）

彙　　報

2020年（令和２年）４月～2021年（令和３年）３月

研　究　状　況
（2020年度）

公募型研究班

日本鍼灸医術の形成ー近世医学史の再構築

班長　長野　仁

研究期間　2018年４月－2021年３月（３年度目）

研究実施状況

今年度は海外からの特別講師を招いて特別講演会を実施予定であったが，感染症拡大の影響のため来年度に延期せざるを得なくなり，また本研究班は班長をはじめ，班員にも医療従事者が多いことから，共同研究会の開催計画等においても大幅な変更を余儀なくされた。こうした計画の変更はあったものの，個々の班員や小規模グループによる資料調査や読解をすすめることにより，とくに鍼術流儀書の成書や流派の成立年代に関する従来の学説を重点的に再検討し，その成果を持ち寄って年度後半に集中して共同研究会を開催，各研究成果に関する討議をおこなった。また，研究期間中にすでに刊行した近世医家新出史料集第一冊・第二冊を改訂・増補し，武田時昌監修・長野仁編集『近世医家新出史料集Ⅰ 改訂版 儒医姓名録 ― 後藤艮山門人録の影印・翻刻』（長野仁解説の加筆訂正），武田時昌監修・永塚憲治編集『近世医家新出史料集Ⅱ 一本堂南洋先生 門人録 増補版』（人名索引の補正及び附録として新出資料『修庵香川先生易弁』の影印・翻刻および解題（武田時昌））として刊行した。班員によるこれまでの研究成果をまとめた論文集を刊行するための準備も進めている。

研究班員

所内：平岡隆二，高井たかね，古勝隆一

学内：赤澤久弥（附属図書館），成高雅（人間・環境学研究科），中神由香子（医学研究科），劉青（人間・環境学研究科）

学外：荒川緑（東洋鍼灸専門学校），猪飼祥夫（猪飼鍼灸院），ウォルフガング・ミヒェル（九州大学名誉教授），浦山きか（森ノ宮医療大学），浦山久嗣（赤門鍼灸柔整専門学校），大浦宏勝（はりきゅう処 路傍庵），郭秀梅（順天堂大学医学史研究室），加畑聡子（北里大学東洋医学総合研究所），梶谷光弘（公益財団法人いづも財団事務局），梁永宣（北京中医薬大学），小曽戸洋（武田科学振興財団杏雨書屋），佐々木友子（森ノ宮医療学園専門学校），島山奈緒子（明治国際医療大学），鈴木達彦（平成帝京大学薬学部），高津孝（鹿児島大学法文学部），多田伊織（鈴鹿医療科学大学），宗敦浩（鍼灸冽心堂），谷田保啓（たにだ鍼灸院），中神源一（中神内科クリニック），長谷川佳与子（奈良女子大学大学院），東昇（京都府立大学文学部），深水美和（大阪府立平野支援学校），松木宣嘉（四国医療専門学校），真柳誠（茨城大学名誉教授），三鬼丈知（大谷大学文学部），横山浩之（森ノ宮医療大学鍼灸情報センター），富田貴洋（鍼灸湧貴堂），豊田裕章（大阪府立豊中支援学校），長谷川宗輔（長谷川鍼灸院），名和敏光（山梨県立大学国際政策学部），

武田時昌（京都大学名誉教授）

研究実施内容

2020 年

12月20日　鍼灸流儀書の再検討　『五本身分抄』および『百腹図説』『五十腹図説』の考察　司会：高井たかね（人文科学研究所）

栄西と桑粥 ― 平安中期から鎌倉期の糖尿病史　発表者：富田貴洋（湧貴堂鍼灸院）

『百腹図説』『五十腹図説』の書誌的考察　発表者：長野　仁（森ノ宮医療大学大学院）

2021 年

1 月31日　医学・鍼灸各流派の成立と伝承（一）

粕谷流と杉山流　司会：高井たかね（人文科学研究所）

粕谷流の流儀書について ― 雲海士流・扁鵲新流との関係性　発表者：松木宣嘉（四国医療専門学校）

杉山流の形成史 ― 入江流・圭庵流を中心に　発表者：大浦慈観（東洋鍼灸専門学校）

2 月14日　医学・鍼灸各流派の成立と伝承（二）

古方派医学と雲海士流　司会：長野　仁（森ノ宮医療大学大学院）

後藤艮山の生涯とその一族について　発表者：今井　秀（今井整形外科）

雲海士流について　発表者：松岡尚則（公益財団法人研医会）

3 月21日　研究報告・講演会　司会：長野　仁（森ノ宮医療大学大学院）

室町期における医学・医書受容の一様相 ― 五山僧が繋ぐ知のネットワーク一　発表者：田中尚子（愛媛大学）

『倭名類聚抄』における『本草和名』の引用　発表者：武倩（中国海洋大学外国語学院）

翻訳と導入 ― 中国南北朝期の仏教と医学　発表者：多田伊織（大阪府立大学）

江戸時代医学公教育を取り巻く経穴学派の諸相　発表者：加畑聡子（北里大学東洋医学総合研究所）

「見えるもの」や「見えないもの」に関わる東アジアの文物や芸術についての学際的な研究

班長　外村　中

研究期間　2019 年 4 月－2022 年 3 月（2 年度目）

研究実施状況

本年度も班長の年間四度の来日に合わせて四回の研究会（6 月・9 月・12 月・3 月）を実施する計画を立てたが，コロナ禍で 6 月の第一回は 8 月に延期となり，最終的にオンラインで開催した。第二回以降も班長は資料蒐集のため来日を要したが，結果的に二週間の待機を経て研究所で副班長とともにオンラインで開催した。第二年次の本年度は仏典のほか儒・道の基本文献にも視野を拡げ，第一回は浄土三部経，第二回は『淮南子』『呂氏春秋』『易経』など，第三回は『老子』『荘子』『管子』『韓非子』『列子』などの文献とこれと関連する作品について検討を行った。班長入国時の待機にかかる滞在費で大幅な予算超過が生じたため，3 月開催分は通例の研究会ではなく当班の関連企画として，儒・道・仏に日本神道を加えた四宗教の交渉をテーマにしたオンライン形式の国際ワークショップ「中国三教と日本神道の「見える」ものや「見えない」もの」を公開で開催した。当日は班長・副班長及び班員 2 名，計 4 名による研究発表と質疑応答が行われ，50 名の参加者があった。

研究班員

所内：稲本泰生，岡村秀典，船山徹，安岡孝一，古勝隆一，倉本尚徳，向井佑介，高井たかね，福谷彬

学内：内記理（文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター），マリア・カルロッタ・アヴァンツィ（文学研究科）

学外：大西磨希子（仏教大学），大原嘉豊（京都国立博物館），黄分（中国社会科学院考古研究所），重田みち（京都芸術大学），清水

健（東京国立博物館），高橋早紀子（愛知学院大学），瀧朝子（大和文華館），田中健一（文化庁），中西俊英（東大寺華厳学研究所），中安真理（同志社大学），西谷功（泉涌寺宝物館），増記隆介（神戸大学），森下章司（大手前大学），横手裕（東京大学），パトリシア・フィスター（日文研・名誉教授），シビル・ギルモンド（ヴュルツブルク大学），ベッティーナ・ゲーシュ（関西大学・甲南大学），ガリア・トドロワ・ペドコワ（京都コンソーシアム），大平理紗（京都府立大学大学院文学研究科），リサ・コチンスキー（南カリフォルニア大学），折山桂子（九州国立博物館），マリサ・リンネ（京都国立博物館・連携協力室），ヒラリー・ピーダセン（同志社大），魏藝（龍谷大学），斎藤龍一（大阪市立美術館）

研究実施内容

2020 年

8 月22日　浄土三部経などと関連作品

宋代仏画の「展開点」としての清浄華院「阿弥陀三尊像」— 見える画像から見えない画像へ

発表者：増記隆介（神戸大学）

鏡像の考察 — 図像を見いだす

発表者：瀧　朝子（大和文華館）

8 月23日　浄土三部経などと関連作品

「浄土三部経」などが説く「見える」ものや「見えない」もの

西方浄土変は阿弥陀浄土を描いたものではない　発表者：外村　中（ヴュルツブルク大学）

「見える」浄土を「観る」— 唐代西方浄土変と道綽　発表者：大西磨希子（佛教大学）

9 月19日　『淮南子』『呂氏春秋』『易経』などと関連作品

『淮南子』が説く「見える」ものと「見えない」もの — 道はまったく「見えない」もの　発表者：外村　中（ヴュルツブルク大学）

漢代神仙思想と像の崇拝

発表者：森下章司（大手前大学）

9 月20日　『淮南子』『呂氏春秋』『易経』などと関連作品

見えない天意を何に見たか — 正史五行志の役割　発表者：塚本明日香（岐阜大学）

墓の中の「見えるもの」と「見えないもの」— 漢魏晋墓の神坐と墓主図像

発表者：向井佑介（京都大学）

12月26日　『老子』『荘子』『管子』『韓非子』『列子』などと関連作品

道家（老荘）が説く「見える」ものや「見えない」もの —「一なる」ものこそ「道」である　発表者：外村　中（ヴュルツブルク大学）

后稷は天に配せられたのか —『詩』大雅「生民」から『孝観』へ

発表者：古勝隆一（京都大学）

12月27日　『老子』『荘子』『管子』『韓非子』『列子』などと関連作品

中国飲食史における〈炒める〉〈揚げる〉をめぐって —『斉民要術』から元代まで　発表者：高井たかね（京都大学）

医家と道家の体内観

発表者：横手　裕（東京大学）

2021 年

3 月28日　国際ワークショップ：中国三教と日本神道の「見える」ものや「見えない」もの

道家系と儒家系と伊勢神道の「一なる」もの：「一なる」ものは「道」か「気」か　発表者：外村　中（ヴュルツブルク大学）

仏像と道教像の図像的関係性再考 — 南北朝～唐時代　発表者：齋藤龍一（大阪市立美術館）

道学諸派における『太極図説』解釈

発表者：福谷　彬（京都大学）

北宋真宗期の仏教美術と三教理解 ― 舎利荘厳を中心に
発表者：稲本泰生（京都大学）

システム内存在としての世界についてのアートを媒介とする文理融合的研究　　班長　三輪眞弘

研究期間　2019 年 4 月～2022 年 3 月（2 年度目）

研究実施状況

本年度は 4 回の Zoom 研究会のほかに，これまでの議論を触媒として制作されたオンライン・イベント「ぎふ末来音楽展 2020　三輪眞弘祭 ― 清められた夜」（9 月 19 日）をライブ配信し，「集えない時代」の意味を問うた。このイベントは特設サイトを設けた（英語版もあり）。当日リアルタイムのみの中継であったが，視聴回数は 3156，全体の 5 % が海外からの視聴だった（アメリカ，インドネシア，ドイツ，イギリス，オーストリア，台湾など）。また公演当日のウェブサイト訪問者は 2583 人（のべではなく，個別ユーザ数），ページビュー数 9819 回である。また 8 月 28 日にはオンラインでプレイベント：「プロローグ「音楽の終わりの終わり」は，ここからはじまる ―」を中継した。また研究班での議論に基づく論考『「第九」　再び抱き合えるか』（8 月 4 日朝日新聞朝刊全国版・論考）を発表，また三輪のイベントとセットの形で 9 月に発行された『音楽の危機』（中公新書）は四大新聞を含む 15 を超えるメディアの書評等で取り上げられ，1 月 1 日（22 時～）の NHK・FM で坂本龍一により紹介された。また三輪と岡田による動画「コロナ時代の末来の音楽」を制作して Youtube にアップした。なお 9 月 19 日のイベントは朝日新聞 12 月 17 日「2020 年の回顧」欄（音楽）において片山杜秀氏により「今年の三点」に選ばれた。さらには 9 月の公開イベントが『佐治敬三賞』に，そして公開イベントを対象として三輪眞弘が『サントリー音楽賞』に選ばれるという，ダブル受賞の快挙を成し遂げた。

研究班員

所内：岡田暁生，瀬戸口明久，佐藤淳二，藤井俊之，上尾真道

学外：三輪眞弘（情報科学芸術大学院大学），松井茂（情報科学芸術大学院大学），伊村靖子（情報科学芸術大学院大学），佐近田展康（名古屋学芸大学），岩崎秀雄（早稲田大学），山崎雅史（株式会社 NTT データセキスイシステムズ），前田真二郎（情報科学芸術大学院大学）

研究実施内容

2020 年

6 月 5 日　オンラインによる音楽はいかにして可能か？　発表者：三輪眞弘（情報科学芸術大学院大学）

6 月21日　ルーマン社会学紹介　発表者：藤井俊之（人文科学研究所）

8 月28日　ぎふ末来音楽展 2020　三輪眞弘祭　プレトーク　ライブ配信
発表者：三輪眞弘（情報科学芸術大学院大学）
コメンテーター：岡田暁生
コメンテーター：前田真二郎（情報科学芸術大学院大学）
コメンテーター：松井茂（情報科学芸術大学院大学）

8 月30日　プレトーク総括討論　発表者：岡田暁生

9 月19日　ぎふ末来音楽展 2020　三輪眞弘祭 ― 清められた夜　ライブ配信
発表者：三輪眞弘（情報科学芸術大学院大学）
発表者：松井　茂（情報科学芸術大学院大学）
発表者：前田真二郎（情報科学芸術大学院大学）

11月 1 日　動画『コロナ時代の末来の音楽』制作
発表者：三輪眞弘（情報科学芸術大学院大学）
コメンテーター：岡田暁生

2021 年

3 月 2 日　人工生命とバイオアートをめぐって　発表者：岩崎秀雄（早稲田大学）

清代～近代における経学の断絶と連続：目録学の視角から　　班長　竹元規人

研究期間　2020年4月～2023年3月（1年度目）

研究実施状況

本研究班は，『文史通義』の会読・ならびに訳注作成を通じ，清朝学術のありかたを解明することを目的としており，本年度は同書巻四の「匡謬篇」から読解を進め，1月20日現在，同巻の「貶俗篇」までの訳注稿を作成し終えた。年度末までには，巻四を読了したうえで巻五を読み始める。

また本年度は，本研究班に先行する研究班「『文史通義』研究」班の成果として，『文史通義』巻三の訳注を完成させ，『東方學報』第95号（2020年12月）に掲載した。

さらに，3月14日に，研究班主催の国際シンポジウムを開催し（Zoomを使用したオンライン会議），台湾・日本の研究者に講演を依頼する予定である。そのほか，2月初旬には，小型のオンライン研究会を予定しており，中国の若手研究者に研究発表を行ってもらい，班員の知見を広めることとしている。

研究班員

所内：古勝隆一，永田知之，藤井律之，白須裕之，福谷彬

学内：宇佐美文理（文学研究科），道坂昭廣（人間・環境学研究科），中原佑真（文学部），王孫涵之（文学研究科），威魯寧（文学研究科），成田健太郎（文学研究科），田尻健太（文学研究科），王歓（文学研究科）

学外：竹元規人（福岡教育大学教育学部），内山直樹（千葉大学大学院人文社会科学研究科），渡湛大（文教大学文学部），重田みち（早稲田大学演劇博物館），山口智弘（駒澤大学文学部），白石将人（中山大学歴史学部），小島明子（新潟大学人文学部），古橋紀宏（香川大学教育学部），新田元規（徳島大学総合科学部）

本年度の研究実施内容

2020年

5月19日　『文史通義』巻四会読　匡謬篇（1）
古勝隆一（人文科学研究所）

6月2日　『文史通義』巻四会読　匡謬篇（2）
古勝隆一（人文科学研究所）

6月16日　『文史通義』巻四会読　匡謬篇（3）
古勝隆一（人文科学研究所）

7月7日　『文史通義』巻四会読　質性篇（1）
威魯寧（京都大学大学院文学研究科）

7月21日　『文史通義』巻四会読　質性篇（2）
内山直樹（千葉大学）

10月6日　『文史通義』巻四会読　黙晒（1）
小島明子（新潟大学）

10月20日　『文史通義』巻四会読　黙晒（2）
成田健太郎
（京都大学大学院文学研究科）

11月17日　『文史通義』巻四会読　黙晒（3）
道坂昭廣
（京都大学大学院人間・環境学研）

12月1日　『文史通義』巻四会読　俗嫌
永田知之（人文科学研究所）

12月15日　『文史通義』巻四会読　鍼名
竹元規人（福岡教育大学）

2021年

1月19日　『文史通義』巻四会読　貶異
福谷　彬（人文科学研究所）

2月2日　『文史通義』巻四会読　貶俗（1）
発表者：王歓
（京都大学大学院文学研究科）

2月16日　『文史通義』巻四会読　貶俗（2）
発表者：王孫涵之
（京都大学大学院文学研究科）

2月7日　『文史通義』研究報告会（1）
「章学城的文集詑与清代学人文集編暴」
発表者：林鋒
（北京大学中文系・ポスドク研究員）

3月14日　『文史通義』研究報告会（2）
「中国学術史と文献学 ― 章学誠の学術構想を起点として」
発表者：張壽安
（台灣中央研究院近史所研究員）
発表者：嘉瀬達男
（小樽商科大学言語センター教授）
発表者：永冨青地

（早稲田大学創造理工学部教授）

「日本の伝統文化」を問い直す　　班長　重田みち

研究期間　2020年4月～2023年3月（1年度目）

本年度の研究実施状況

本年度は5回の研究会と1回のシンポジウムを実施した。芸能史，美術史，音楽史，禅思想史などの分野の研究報告のほか，基本文献の会読，方法論的検討などを実施した。

研究班員

所内：高木博志，菊地暁，岡村秀典，稲本泰生，古勝隆一，福谷彬，高階絵里加

学内：成田健太郎（文学研究科），陳佑真（文学研究科），王孫涵之（文学研究科）

学外：佐々木孝浩（慶應義塾大学斯道文庫），上川通夫（愛知県立大学日本文科学部），水口拓壽（武蔵大学人文学部），外村中（ドイツ・ヴュルツブルク大学），井上治（京都芸術大学），柳幹康（花園大学），シビルギルモンド（ヴュルツブルク大学），今枝杏子（神戸女学院大学），西谷功（泉涌寺・心照殿），神津朝夫（立命館大学），ガリアペトコヴァ（関西学院大学），田中健一（文化庁），竹内有一（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター），宮崎涼子（京都芸術大学）

本年度の研究実施内容

2020年

5月31日　問題提起「日本の伝統文化」とはどういうものとされてきたか：鈴木大拙と久松真一の著作をとおして
発表者：重田みち（京都芸術大学）
コメンテーター：古勝隆一

7月19日　リーディング：宮本常一・村井康彦・守屋毅「共同討議：雑談」
発表者：菊地　暁

日本中世の諸芸と道学 ― 発端としての世阿弥能楽論
発表者：重田みち（京都芸術大学）
コメンテーター：福谷　彬

2020年

9年13日　1937年パリ万国博覧会における「日本の伝統」を考える
発表者：高階絵里加
コメンテーター：宮崎涼子（京都芸術大学）

茶禅一味説をめぐって
発表者：神津朝夫（立命館大学）
コメンテーター：佐々木孝浩（慶應義塾大学斯道文庫）

12月6日　『宗鏡録』の成立と伝播：中国禅による仏教の統合と日本への影響
発表者：柳幹康（花園大学）
コメンテーター：古勝隆一

近世音楽芸能における異相と外来文化
発表者：竹内有一（京都市立芸術大学）
コメンテーター：今枝杏子（神戸女学院大学）

2021年

1月10日　シンポジウム：「日本の伝統文化」を問い直す

漢字圏古医籍の定量・比較研究 ― その異・同と社会経済背景
発表者：真柳　誠（茨城大学）

日本絵画の向こう側 ― 中国絵画史からの視点　　発表者：宮崎法子（実践女子大学）

異文化として日本を眺める ― ヨーロッパ近世の眼差しとキリシタン時代の布教活動
発表者：シルヴィオ・ヴィータ（京都外国語大学）

司会：重田みち（京都芸術大学）
司会：古勝隆一

3月21日日　室町時代後期に何故絵入り冊子本が登場したのか？
発表者：佐々木孝浩（慶應義塾大学）
コメンテーター：王孫涵之（京都大学文学部）

中世の巡礼僧と民衆社会 ― 可能思想としての外来仏教
発表者：上川通夫（愛知県立大学）
コメンテーター：菊地　暁

実験性の生態学 ― 人新世における多種共生関係に関する比較研究　　班長　モハーチ　ゲルゲイ

研究期間　2020 年 4 月～2023 年 3 月（1 年度目）

本年度の研究実施状況

初年度である本年度は，コロナ禍という状況の中で，全ての共同研究会をリモート形式（Zoom）にて実施してきた。班員全員が参加できることを最優先に，6 回の共同研究会の一部を合併して，合計 4 日で開催された。第一回共同研究会での班長（モハーチ）と副班長（石井）による本共同研究の趣旨説明のあと，第 2～第 6 回共同研究会を通じて，「実験性」の概念を近年増加しつつある自然環境と人間社会とのかかわりあいに関する人文・社会科学的研究の中で位置付けるため，所内外の班員によるレビュー文献の解読と，実験性の人類学（石井），社会学（モハーチ），歴史学（瀬戸口・予定），科学技術社会論（鈴木，モハーチ）などの分野における近年の研究動向に関する発表と討論を中心に研究活動を進めた。若手研究者などのゲストも交えて広く議論を行い，今後の国際的なネットーワーク構築に不可欠な知識を得る活動を試みた。本年度の最後の共同研究会では，来年度の中間成果発表に向けて，具体的な内容について議論を開始した。また，今後の執筆や議論などの共同作業のツールとして，本共同研究のウェブサイトを開設した。

研究班員

所内：石井美保，瀬戸口明久

学内：石川登（東南アジア地域研究研究所）

学外：モハーチ　ゲルゲイ（大阪大学人間科学研究科），鈴木和歌奈（日本学術振興会），森田敦郎（大阪大学人間科学研究科），中空萌（広島大学人間社会科学研究科）

研究実施内容

2020 年

7 月11日　共同研究の趣旨説明
発表者：石井美保
（京都大学人文科学研究所）
発表者：モハーチ　ゲルゲイ
（大阪大学人間科学研究科）

9 月28日　実験性の生態学：土台と限界
発表者：モハーチ　ゲルゲイ
（大阪大学人間科学研究科）

2020 年

9 月28日　Traps and Experimental Systems
発表者：鈴木和歌奈
（日本学術振興会 PD）

11月28日　自然保護，実験，生政治
発表者：石井美保
（京都大学人文科学研究所）

2021 年

2 月22日　実験室からフィールドへ
発表者：瀬戸口明久
（京都大学人文科学研究所）

2 月22日　Keywords for Experimentality Ecologies　　コメンテーター：班員全員

東アジア馬文化の研究　　班長　諫早直人

研究期間　2020 年 4 月～2021 年 3 月（単年度）

研究実施状況

本研究班では，2020 年度に 3 回の研究会を実施した。7 月の第 1 回研究会では，ユーラシア草原地帯における馬利用の開始とその東方拡散について，研究報告と議論をおこなった。馬骨・歯の変形・摩耗状況や DNA 分析，車や馬具の出土状況などから，前 4 千年紀から前 3 千年紀にかけて，ユーラシア各地で馬の家畜化と利用が進められていく状況が示された。12 月の第 2 回研究会では，中国魏晋南北朝時代の馬文化をテーマとして，2 本の研究報告をおこなった。まず，これまでに整理してきた中国の魏晋南北朝墓出土の陶馬や馬車・牛車明器のデータをもとに，文献史料と対比しながら，馬車と牛車の関係，鞍馬の役割，馬具の変化などを議論した。続いて，おもに 5 世紀の墓室壁画・漆棺画などの図像史料，および墓出土の動物骨をもとに，中国北朝の騎馬遊牧文化について検討を進めた。2 月の第 3 回研究会では，日本古代の馬文化に着目し，おもに文献史料にもとづき古代の馬政について議論した。

研究班員

所内：向井佑介，岡村秀典，古松崇志，藤井律之

学内：吉井秀夫（文学研究科），坂川幸祐（文学研究科）

学外：森下章司（大手前大学），井上直樹（京都府立大学），中村大介（埼玉大学），青柳泰介（奈良県立橿原考古学研究所付属博物館），佐藤健太郎（関西大学博物館），片山健太郎（奈良文化財研究所），菊地大樹（総合研究大学院大学），Joseph Ryan（岡山大学），大平理紗（京都府立大学），大谷育恵（金沢大学）

本年度の研究実施内容

2020 年

7 月 3 日　ユーラシア草原地帯の馬文化　馬利用の開始と東方拡散
発表者：中村大介（埼玉大学）

12月18日　中国魏晋南北朝の馬文化　魏晋南北朝の「馬俑」について
発表者：大平理紗（京都府立大学）
考古・図像資料からみた北朝の騎馬・遊牧文化　発表者：向井佑介（京都大学人文科学研究所）

2 月19日　古代日本の馬文化　日本古代の馬政の特質　発表者：佐藤健太郎（関西大学博物館）

西部講堂を中心とする戦後文化空間の研究

班長　朴沙羅

研究期間　2020 年 4 月～2021 年 3 月（単年度）

研究実施状況

研究目的の達成のために，1 年を通して，西部講堂に関係した人々にインタビューの実施を重ねて，彼らから当時の文献の提供を受けることで，戦後日本文化運動史，学生運動史における西部講堂および関係者の検証をすすめた。また「21 世紀の人文学」班や京大内の関連分野の研究者に積極的に声をかけることで，インタビューをより充実させるとともに，共同研究会で活発な議論を展開することができた。西部講堂の先行研究はこれまでなく，主に基礎を充実させるために本研究班の活動は割かれたが，今後の研究において重要な作業を推し進めることができた。

研究班員

所内：福家崇洋

学内：田所大輔（人間・環境学研究科）

学外：安岡健一（大阪大学），伊藤存（京都市立芸術大学）

研究実施内容

2020 年

6 月23日　新開純也へのインタビュー

7 月10日　山中透へのインタビュー

10月22日　高瀬照美，新開純也，飯田俊の鼎談及びインタビュー

10月22日　新開純也へのインタビュー

10月22日　共同研究会及び今後の打ち合わせ

10月23日　飯田俊へのインタビュー

10月23日　木村英輝へのインタビュー

10月23日　飯田俊へのインタビュー

10月30日　シモーヌ深雪及び BUBU へのインタビュー

小津安二郎映画の欧米における批評的受容に関する研究

班長　正清健介

研究期間　2020 年 4 月～2021 年 3 月（単度年）

研究実施状況

2020 年 4 月～9 月は，班員それぞれが小津映画を対象にした欧米の映画批評を，図書館や国立映画アーカイブ等にて調査し，リストを作成した。役割分担は次の通りである。正清と板井は仏国における映画批評を調査した。特に正清は映画批評誌『カイエ・ドゥ・シネマ』，板井は『ポジティフ』における小津映画批評を調査し，その考察まで進めた。伊藤と宮本は英語圏の小津映画批評を調査した。伊藤は英国の批評，宮本は米国の批評を調査し，リストを作成した。

2020 年 9 月 18 日，オンライン（Zoom）で第一回研究会を開催した。班員は発表者としてそれぞれ 4 月からの調査の報告を行った。またこれに合わせて，副班長・森本はコメンテーターとしてそれぞれの報告に対してコメントをした。

10 月～3 月は，プロジェクト経費を活用し関係資

料（書籍）を補いつつ調査で得た批評の読解・考察を進めた。

2021 年 3 月 12 日，人文科学研究所内において第二回研究会を開催し，班員それぞれ研究成果の報告を行なった。

研究班員

所内：森本淳生（副班長）

学外：正清健介（一橋大学大学院言語社会研究科），板井仁（一橋大学大学院言語社会研究科），宮本明子（同志社女子大学表象文化学部），伊藤弘了（関西大学文学部／京都大学大学院人間・環境学研究科／京都府立大学文学部）

研究実施内容

2020 年

9 月15日　フランス『カイエ』の小津映画評
発表者：正清健介
（一橋大学大学院言語社会研究科）
フランス『ポジティフ』の小津映画評
発表者：板井　仁
（一橋大学大学院言語社会研究科）
アメリカの小津映画批評
発表者：宮本明子
（同志社女子大学表象文化学部）
イギリスにおける小津映画批評
発表者：伊藤弘了（関西大学文学部）
コメンテーター：森本淳生
（京都大学人文科学研究所）

3 月12日　フランスにおける小津映画受容
発表者：正清健介
（一橋大学大学院言語社会研究科）
発表者：板井　仁
（一橋大学大学院言語社会研究科）
アメリカにおける小津映画受容
発表者：宮本明子
（同志社女子大学表象文化学部）
イギリスにおける小津映画受容
発表者：伊藤弘了（関西大学文学部）
コメンテーター：森本淳生
（京都大学人文科学研究所）

東アジアにおける阿弥陀如来の表象

班長　高橋早紀子

研究期間　2020 年 4 月～2021 年 3 月（単年度）

研究実施状況

東アジアにおける阿弥陀如来の表象についての考察を通じて，阿弥陀如来に対する多様な思想や信仰の一端を追究すべく，二回の研究討論会（11 月 7 日・12 月 5 日／ Zoom によるオンライン実施／参加者約 60 名）を開催した。第一回の研究討論会「日本の仏教彫刻―作品生成の場」は，高橋とゲストスピーカーの山口隆介氏（奈良国立博物館），三田覚之氏（東京国立博物館）を発表者とし，第二回の研究討論会「尊像の姿と作用―阿弥陀仏と四天王を例に」は，班員の田中健一氏（文化庁），高志緑氏（日本学術振興会），檜山智美氏（京都大学），ゲストスピーカーの佐藤有希子氏（奈良女子大学）を発表者とし，班員以外の当該テーマに関心をもつ研究者にも公開した。いずれも，当日は約 60 名が参加し，最新の知見に基づく活発な質疑応答が行われた。

研究班員

所内：稲本泰生，岡村秀典，向井佑介

学内：根立研介（文学研究科），内記理（文学研究科），檜山智美（京都大学白眉センター），高志緑（人文科学研究所），折山桂子（文学研究科），カルロッタ・アヴァンツィ（文学研究科）

学外：折山桂子（独立行政法人九州国立博物館），田中健一（文化庁），田林啓（白鶴美術館），佐々木守俊（清泉女子大学人文科学研究科）

研究実施内容

2020 年

11月 7 日　日本の仏教彫刻 ― 作品生成の場　広隆寺講堂阿弥陀如来・地蔵菩薩・虚空蔵菩薩坐像と道昌
発表者：高橋早紀子（愛知学院大学）
快慶の阿弥陀仏造像
発表者：山口隆介（奈良国立博物館）
法隆寺金堂における四天王の世界
発表者：三田覚之（東京国立博物館）

12月5日　尊像の姿と作用 ― 阿弥陀仏と四天王を例に　飛鳥時代の阿弥陀造像
発表者：田中健一（文化庁）
懺法との関わりから見た阿弥陀像 ― 淳熙十年銘「阿弥陀浄土図」を中心に
発表者：高志　緑
（学振特別研究員・人文科学研究所）
西域北道の仏教石窟壁画に描かれた四天王とその眷属の図像
発表者：檜山智美
（京都大学白眉センター）
中世絵巻に表された毘沙門天像（補足・質疑）　発表者：佐藤有希子
（奈良女子大学）

「長い 19 世紀」におけるインド・中国の社会経済史の比較　税制に注目して　班長　小川道大

研究期間
2020 年 4 月～2021 年 3 月（単年度）

本年度の研究実施状況

本年度は対面の研究会を予定していたが，全てオンラインとなった。4 月 25 日に第 1 回研究会を開催し，世界経済史会議パリ大会（WEHC2022）に応募するパネルの内容について検討を行った。その結果，巨大国家における資源配分をテーマにして土地制度，財政，航運，金融。商業を検討することとし，“Resource Distribution in the Mega states with Small Governments : A Comparison between China and India, 1750-1950”というタイトルで申請することを決定した。9 月 18 日には第 2 回研究会を開催し，社会経済史学会大会で実施するパネルについて，「趣旨説明」を村上，「空間・分配・秩序：土地制度をめぐる中印比較」を田口・小川，「工場労働者をめぐる中印比較」を神田・富澤，「中印海域ネットワークの比較分析 ― ボンベイと香港を中心に」を木越が報告して討論を行った。

研究班員

所内：村上衛

学外：小川道大（金沢大学国際基幹教育院），岡本隆司（京都府立大学文学部），神田さやこ（慶應義塾大学経済学部），木越義則（名古屋大学大学院経済学研究科），城山智子（東京大学大学院経済学研究科），田口宏二朗（大阪大学大学院文学研究科），富澤芳亜（島根大学教育学部）

研究実施内容

2020 年

4 月25日　中印比較史の今後の計画について
発表者：村上　衛

9 月18日　転換期「巨大国家」における資源配分：中国・インドの土地・労働力・航運　趣旨説明　発表者：村上　衛
空間・分配・秩序：土地制度をめぐる中印比較　発表者：田口宏二朗
（大阪大学）
発表者：小川道大（金沢大学）
工場労働者をめぐる中印比較
発表者：神田さやこ（慶應大学）
発表者：富澤芳亜（島根大学）
中印海域ネットワークの比較分析：ボンベイと香港を中心に
発表者：木越義則（名古屋大学）

人文学研究部

近代京都と文化　班長　高木博志

研究期間　2019 年 4 月～2022 年 3 月（2 年度目）

研究実施状況

本研究班は，対面による研究会実施を原則としているため，本年度前半は，新型コロナウイルスの感染拡大及び緊急事態宣言の発令により，当初予定していた研究会が実施できなかった。本年最初の研究会は，9 月 12 日に開催した宇治川巡見である。感染対策を十分に講じた上で，宇治川周辺の茶園や天ヶ瀬ダムを見学し電力開発や生業の歴史を資史料から検討した。10 月 31 日には，京都文化博物館の「舞妓モダン」展との共催企画として，同博物館学芸員・植田彩芳子氏による展示解説と研究報告を行い，班員全体で深い議論を行った。11 月 7 日には，「大正期京都のロマン主義」に関するシンポジウムを開催した。本来は一般公開する予定であったが，感染症対策のため，班員内部にのみ公開するクロー

ズな会となったが，地理学・歴史学・美術史・文学・映画研究と学際的に大正期の文化とロマン主義概念を鍛え直す内容となった。研究会参加者は両日ともに20人前後に及び，活発な議論が繰り広げられた。2021年3月27日には，久保田米倦・吉川観方という単に美術の領域にとどまらず，ジャーナリズム・映画など広く文化や社会にはみ出す，本研究班の趣旨に沿う報告を得た。

研究班員

所内：高木博志，岩城卓二，高階絵里加，福家崇洋，永田知之，池田さなえ

学内：谷川穣（文学研究科），藤原学（人間・環境学研究科），田中智子（教育学研究科），木下千花（人間・環境学研究科）

学外：長志珠絵（神戸大学大学院国際文化学研究科），國賀由美子（大谷大学文学部歴史学科），北野裕子（龍谷大学），丸山宏（名城大学農学部），玉城玲子（向日市文化資料館），日向伸介（大阪大学言語文化研究科），高久嶺之介（同志社大学），山本真紗子（立命館大学），平山昇（神奈川大学 国際日本学部国際文化交流学科），加藤政洋（立命館大学文学部），市川秀之（滋賀県立大学人間文化学部），清水重敦（京都工芸繊維大学），並木誠士（京都工芸繊維大学），植田彩芳子（京都文化博物館），大矢敦子（京都文化博物館），中野慎之（文化庁文化財第一課），原田敬一（佛教大学歴史学部），本康宏史（金沢星稜大学経済学部），中川理（京都工芸繊維大学），ジョン・ブリーン（国際日本文化研究センター），細川光洋（静岡県立大学国際関係学部），イリナ・ホルカ（東京大学大学院総合文化研究科），鈴木則子（奈良女子大学）

研究実施内容

2020年

9月12日　宇治川巡見

10月31日　「舞妓モダン」展をめぐる研究会・観覧

展覧会「舞妓モダン」展のガイダンス

発表者：植田彩芳子　京都文化博物館

「舞妓モダン」展の観覧

「舞妓モダン」をめぐる鼎談

発表者：植田彩芳子（京都文化博物館）

発表者：加藤政洋（立命館大学）

発表者：高木博志

（京都大学人文科学研究所）

11月7日　「大正期京都のロマン主義―吉井勇・花街・国展・映画」シンポジウム

大正期京都のロマン主義

発表者：高木博志（人文科学研究所）

『五足の靴』「夢の女」の発見 ― 異国憧憬のまなざしと〈祇園〉

発表者：細川光洋（静岡県立大学）

大正期京都の都市空間 ―〈光と影〉三景　発表者：加藤政洋（立命館大学）

国画創作協会結成の位置と意義

発表者：中野慎之（文化庁）

マキノ映画における京都の花街・舞妓表象 ― 万博から「祇園小唄　繪日傘第一話　舞ひの袖」（1930）へ

発表者：冨田美香

（国立映画アーカイブ）

2021年

3月27日　「久保田米倦と明治期京都画壇」

発表者：森　光彦

（京都市学校歴史博物館）

「吉川観方と京都文化」

発表者：松川綾子（奈良県立美術館）

環境問題の社会史的研究　　班長　岩城卓二

研究期間　2020年4月～2023年3月（1年度目）

研究実施状況

本年度前半は，新型コロナウイルスの感染拡大及び緊急事態宣言の発令により対面型の研究会が開催できなくなったため，当初予定よりも開始が遅れたが，6月よりZoomによる研究会を開始した。本年度は，日本近世・近代史を専門としつつも古気候学や民俗学・地質学など学際的な視野から研究を進めてきた気鋭の研究者による報告を軸に，日本史のみならず中国史・西洋史，更には文化人類学・哲学など多様な参加者による活発な議論が展開された。本

年度はこれに加えて，Zoom による研究会の録画も行い，欠席者にデータを提出した。

研究班員

所内：岩城卓二，小関隆，高木博志，石井美保，KNAUDT Till，瀬戸口明久，平岡隆二，福家崇洋，藤原辰史，直野章子，池田さなえ

学内：石川登（東南アジア地域研究研究所），ERICSON Kjell David（学際融合教育研究推進センター），Andrea Flores Urushima（東南アジア地域研究研究所），土屋由香（人間・環境学研究科），山越言（アジア・アフリカ地域研究研究科）

学外：井黒忍（大谷大学），HOLCA Irina（東京大学大学院総合文化研究科），岡安裕介（NPO 法人京都アカデミア），河野末央（尼崎市立地域研究史料館），鎌谷かおる（立命館大学），唐澤太輔（秋田公立美術大学大学院），斎藤幸平（大阪市立大学大学院），佐野静代（同志社大学），高久智広（神戸市立博物館），武井弘一（琉球大学），田中雅一（国際ファッション専門職大学），友松タ香（愛知大学），朴美貞（立命館大学），橋本道範（滋賀県立琵琶湖博物館），松嶋健（広島大学大学院），松村圭一郎（岡山大学大学院），松本望（尼崎市立地域研究史料館），青木聡子（名古屋大学情報文化学部），河島裕子（尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ），ピッテル・シリアン（フランス国立極東学院京都支部）

研究実施内容

2020 年

6 月13日　近世の河川・堤防・新開
発表者：市川秀之（滋賀県立大学）

6 月22日　近世日本の気候変動を考える ― 異分野融合研究で日本史を捉え直すために
発表者：鎌谷かおる（立命館大学）

7 月13日　近代日本の環境に関する専門的知識と足尾鉱毒事件
発表者：ピッテル・シリアン（フランス国立極東学院京都支部）

11月 9 日　日記史料からみた山間部の生業と家族・社会関係 ―『鉄五郎日記』を題材として 1921～1941
発表者：沼尻晃伸（立教大学）

11月16日　森と火と環境論 ― 帝国日本と科学的林業をめぐって　発表者：米家泰作（京都大学文学研究科）

12月 7 日　こどもを喰う川 ― 都市環境汚染と隔てて保つ衛生・安全
発表者：関　礼子（立教大学）

12月21日　鉄山・銅山の「ゴミ」― 鉄屎・緑青・灰毒からみる近世社会
発表者：岩城卓二（京都大学人文科学研究所）

2 月 1 日　「自然環境」と「野生」のはざまで：近代プロジェクトとしての開発と自然保護をめぐる問題　発表者：石井美保（京都大学人文科学研究所）

3 月 8 日　幕末期の炭鉱開発と幕府のエネルギー政策　発表者：高久智広（神戸市立博物館）

3 月29日　近世東北の鉄生産と森林・河川 ― 仙台藩領を事例として
発表者：高橋美貴（東京農工大学）

人の分類と人種化に関する国際比較研究

班長　竹沢泰子

研究期間　2020 年 4 月～2023 年 3 月（1 年度目）

本年度の研究実施状況

2020 年 5 月に警察官によって殺害されたジョージ・フロイドさんの死を契機に世界中に拡まったブラック・ライブズ・マター（「黒人の命を粗末にするな」）運動を受け，2020 年 6 月に「緊急リレートーク：ブラック・ライブズ・マター運動の背景と課題」をオンラインで主催した。国内外から 500 人近い参加者が集い，議論や意見交換を行った。さらに新型コロナウイルスの感染蔓延によって，日本社会においても，「目に見えない」差別が社会問題となっている。この問題を深く掘り下げて議論するために，「コロナ時代の人間の『ちがい』と差別～人

類学からの提言～」と題した二つのシンポジウムを主催した。さらに国際発信という点では，『環太平洋地域の移動と人種』（京大出版 2020 年）の合評会を 2 回開催し，英語版出版に向けて準備している。またフランス EHESS の研究者たちとの共同研究の成果は，*Politica* 特集号 “La race objet des sciences sociales, un dialogue franco-japonais”（2021 年 1 月-3 月）として刊行される。

研究班員

所内：竹沢泰子，石井美保，瀬戸口明久，ティル・クナウト

学内：山極壽一（総長室），松田素二（文学研究科），徳永悠（人間環境学研究科）

学外：斎藤成也（国立遺伝学研究所），海部陽介（国立科学博物館人類研究部），田辺明生（東京大学文化人類学研究室），陳天爾（早稲田大学国際学術院），木村亮介（琉球大学医学研究科），関口寛（四国大学経営情報学部），長志珠絵（神戸大学国際文化学部研究科），太田博樹（東京大学大学院理学系研究科），John Russell（岐阜大学地域科学部）

研究実施内容

2020 年

6 月21日　緊急リレートーク：ブラック・ライブズ・マター運動の背景と課題　趣旨説明＋閉会の辞：ここからどこへ向かうべきか？　発表者：竹沢泰子（人文科学研究所）ほか 5 名

8 月 6 日　コロナ時代の人間のちがいと差別　シンポジウム打合わせ
発表者：竹沢泰子（人文科学研究所）
発表者：山極寿一（京都大学総長）
発表者：徳永勝士（国立研究開発法人国立国際医療研究センター）
ほか 7 名

8 月24日　『環太平洋地域の移動と人種』合評会
司会：竹沢泰子（人文科学研究所）ほか
評者：飯島真理子（上智大学外国語学部）
貴堂嘉之（一橋大学大学院社会学研究科）
津田浩司（東京大学大学院総合文化研究科）
リスポンス：各執筆者

10月11日　「ちがい」と差別～人類学からの提言
発表者：竹沢泰子（人文科学研究所）ほか
発表者：山極寿一（京都大学総長）
発表者：徳永勝士（国立研究開発法人国立国際医療研究センター）
ほか 7 名

11月 4 日　「ちがい」と差別～人類学からの提言～　反省会
発表者：竹沢泰子（人文科学研究所）ほか

12月 1 日　Visibilities and invisibilities
コメンテーター：竹沢泰子（人文科学研究所）ほか

12月22日　同上　　コメンテーター：田辺明生（東京大学大学院総合文化研究科）ほか

12月27日　『環太平洋地域の移動と人種』合評会
評者：名和克郎（東京大学東洋文化研究所）
馬路智仁（東京大学大学院総合文化研究科）

2021 年

1 月4，5日　日仏論集刊行のための研究会
発表者：竹沢泰子（人文科学研究所）ほか
司会：田辺明生（東京大学大学院総合文化研究科）
発表者：太田博樹（東京大学大学院理学系研究科）
ほか 2 名

21 世紀の人文学　　班長　岡田暁生・小関隆・佐藤淳二

研究期間

2018 年 4 月～2022 年 3 月（3 年度目）

研究実施状況

本年度はコロナ禍のため対面研究会は中止せざるを得なかったが，6 回の研究会をもち，そのほかに「生きるための人文学」と題した三回シリーズの動画を制作して Youtube にアップした。後者はコロナ禍の人文学の発信の可能性を問うものとして，疫病と世界史（藤原辰史），コロナ禍の EU（遠藤乾），末来の音楽の可能性（三輪眞弘）を論じた。また研究会においては Zoom はもちろん，テクスト回覧式の形式（あらかじめ発表者が原稿を参加者に回覧し，それに基づいて参加者が ML で応答する）が極めて充実した議論を可能にする形式であることを確認した。また現場のアーティストへの多様な分野の研究者からの聞き取りも実り多いものであった。共同研究においては，今後の人文学が「近代」のみならず，人間世界自体の終焉の可能性を見据えたものにならざるをえないという点に，議論が収斂しつつある。なお制作した動画は 11 月末にアップしたが，12 月末日において合計約 700 回のアクセスがあった。

研究班員

所内：岡田暁生，佐藤淳二，小関隆，森本淳生，藤原辰史，藤井俊之，伊藤順二，上尾真道

学内：吉岡洋（こころの末来研究センター）

学外：王寺賢太（東京大学文学研究科），長谷川貴彦（北海道大学文学研究科），中野耕太郎（東京大学教養学部），田辺明生（東京大学教養学部），三輪眞弘（情報科学芸術大学院大学），上田和 彦（関西学院大学），橋本伸也（関西学院大学），坂本雄一郎（関西学院大学）

研究実施内容

2020 年

6 月 5 日　オンラインによる音楽はいかにして可能か？　発表者：三輪眞弘（情報科学芸術大学院大学）

6 月21日　ルーマン社会学紹介　発表者：藤井俊之（人文科学研究所）

7 月10日　山中透氏に 1980 年代日本のサブカルチャーを聞く　発表者：山中　透（フリーアーティスト／ DJ）

10月03日　来し方と行く末：「末来は生きうるか」という問いからいまを考える　発表者：小野塚知二（東京大学経済学部）

9 月23日　動画制作「生きるための人文学」第二回「コロナ危機下の欧州」　発表者：遠藤　乾（北海道大学法学部）　コメンテーター：小関　隆

12月19日　岡田暁生『音楽の危機』をめぐって　発表者：岡田暁生　発表者：森本淳生

2021 年

3 月12日　藤原辰史『農の原理の史的研究』をめぐって　佐藤淳二

帝国日本の「財界」形成についての研究：1895 年～1945 年　　班長　籠谷直人

研究期間　2018 年 4 月～2021 年 3 月（3 年度目）

本年度の研究実施状況

本年度は，コロナウイルス蔓延の影響下で研究会を開催することができなかった。

研究班員

所内：岩井茂樹，村上衛，都留俊太郎

学外：陳来幸（兵庫県立大学），上田貴子（近畿大学），泉川普，鍾淑敏（中央研究院・台湾史研究所）

研究実施内容

なし

芸術と社会　　班長　高階絵里加

研究期間　2020 年 4 月～2023 年 3 月（1 年度目）

本年度の研究実施状況

三年計画の第一年目である本年は，当初 4 月の開始を予定していたがコロナ禍のため開始が延期され，9 月よりオンラインによる開催を実施することとなった。今年度はすべての研究会をオンラインにより開催した。第一回研究会は 9 月 26 日（土）に開

催，岡田暁生氏「パウル・ベッカーと音楽社会学のはじまり」および藤井俊之氏「芸術と社会，自律と媒介 ― アドルノの音楽論に注目して」の２名の発表者による音楽と社会に関連する発表が行われた。第二回研究会は10月17日（土）に開催，近代日本における絵葉書をテーマとして，大原由佳子氏「「絵葉書アルバム」から見る第１回渡欧時の黒田重太郎」および小嶋ひろみ氏「竹久夢二とエハガキ ― 月刊夢二カードと月刊夢二エハガキ」の２名による発表が行われた。第三回研究会は11月21日（土）に開催，京都文化博物館で開催中の「舞妓モダン展」に関連し，植田彩芳子氏による発表「日本近代における描かれた舞妓について」が行われた。第四回研究会は宮下規久朗氏により，ヨーロッパと日本の歴史的疫病流行と美術の関連についての発表「疫病と美術」が行われた。第五回研究会は2021年3月6日（土）に，三宅拓也氏による発表「芸術と社会の接点としての商品陳列所」が行われた。いずれの研究会においても，発表後に芸術と社会に関わる活発な議論が交わされた。

研究班員

所内：高階絵里加，池田さなえ，岡田暁生，小関隆，高木博志，立木康介，福家崇洋，藤原辰史，森本淳生，藤井俊之

学内：花田史彦（教育学研究科）

学外：有賀茜（京都府京都文化博物館），植田憲司（京都府京都文化博物館），植田彩芳子（京都府京都文化博物館），大久保恭子（京都橘大学発達教育学部），大原由佳子（滋賀県立近代美術館），小川佐和子（北海道大学大学院文学研究院），國賀由美子（大谷大学文学部），久保豊（富山大学），郷司泰仁（香雪美術館），小嶋ひろみ（（公益財団法人）両備文化振興財団夢二郷土美術館），実方葉子（泉屋博古館），柴田就平（笠岡市竹喬美術館），清水智世（京都府京都文化博物館），鈴木千栄子（毎日放送），孝岡睦子（大原美術館），高階秀爾（大原美術館），竹内幸絵（同志社大学），竹嶋康平（泉屋博古館），多田羅多起子（広島大学 大学院人間社会科学研究科／教育学部造形芸術系コース），永井隆則（京都工芸繊維大学デザイン・建築学系），中野慎之（文化庁文化財第一課文部科学），林洋子（文化庁），藤本真名美（和歌山県立近代美術館），古田理子（① 景聴園（現代作家グループ）② 株式会社髙島屋京都店販売第１部化粧品売場），イリナ・ホルカ（東京大学大学院総合文化研究科国際日本教育研究機構），松原史（北野天満宮北野文化研究所），三宅拓也（京都工芸繊維大学デザイン・建築学系），宮下規久朗（神戸大学大学院人文学研究科），森光彦（京都市学校歴史博物館），山口真有香（滋賀県立近代美術館），山田真規子（目黒区美術館），VOLK, Alicia（アリサ・ヴォルク）（University of Maryland（メリーランド大学）），河本真理（日本女子大学），久保昭博（関西学院大学）

研究実施内容

2020年

9月26日　第１回

パウル・ベッカーと音楽社会学の始まり　発表者：岡田暁生（人文科学研究所）

芸術と社会，自律と媒介 ― アドルノの音楽論に注目して

発表者：藤井俊之（人文科学研究所）

10月17日　第２回

「絵葉書アルバム」から見る第１回目渡欧時の黒田重太郎

発表者：大原由佳子（滋賀県立近代美術館）

竹久夢二とエハガキ ― 月刊夢二カードと月刊夢二エハガキ

発表者：小嶋ひろみ（公益財団法人両備文化振興財団夢二郷土美術館）

11月21日　第３回

日本近代における描かれた舞妓について　発表者：植田彩芳子（京都文化博物館）

12月５日　第４回
疫病と美術　　発表者：宮下規久朗
（神戸大学）

2021 年
３月６日　第５回
芸術と社会の接点としての商品陳列所
発表者：三宅拓也
（京都工芸繊維大学）

東方学研究部

チベット文明の継承と史的展開の諸相

班長　池田　巧

研究期間　2018 年４月～2021 年３月（３年度目）

本年度の研究実施状況

最終年度に当たる本年度は，大きく分けて以下の２つの活動を中心に実施した。1）本研究班の活動成果を反映した概論『チベットの歴史と社会』（岩尾一史・池田巧［共編］臨川書店）の刊行に向けて，編集会議と必要な修訂作業を継続して行った。2）研究動向の把握と研究情報交換を目的として Zoom による研究会議を開催した。1）については諸般の事情から内容の大幅な再編と調整の必要があり，編集作業の遅れが出ていたが，今年度で無事に編集作業を終え，年度内に刊行できた。2）については，班員からの話題提供により，チベットの地理情報と地図について，チベットに伝わる日本人の起源伝説について，チベット語典籍史料における時代区分の意識といった問題の研究報告と討論を行った。

研究班員

所内：池田巧，稲葉積，中西竜也

学内：熊谷誠慈（こころの末来研究センター），マルク＝アンリ・デロッシュ（総合生存学館），安田章紀（こころの末来研究センター），長岡慶（アジア・アフリカ地域研究科）

学外：武内紹人（神戸市外国語大学），西田愛（神戸市外国語大学），大川謙作（日本大学），別所裕介（駒澤大学），星泉（東京外国語大学），根本裕史（広島大学），池尻陽子（関西大学），海老原志穂（東京外国語大学），山本明志（大阪国際大学），小西賢吾（金沢星稜大学），山本達也（静岡大学），小野田俊蔵（佛教大学），三宅伸一郎（大谷大学），小松原ゆり（明治大学），村上大輔（駿河台大学），井内真帆（神戸市外国語大学），加納和雄（駒澤大学），大羽恵美（金沢大学），大西啓司（龍谷大学），黒田有誌（龍谷大学），岩尾一史（龍谷大学）

研究実施内容

2020 年
10月17日　チベット研究の諸問題　チベットの地図製作と地理情報について
発表者：池田　巧
11月21日　チベット研究の諸問題　チベットにおける日本人の起源伝説について
発表者：池田　巧
12月12日　チベット研究の諸問題　チベット語典籍史料における時代区分の意識―「サキャ派時代」と「パクモドゥ派時代」　発表者：山本明志
（大阪国際大学）

2021 年
１月23日　チベット研究の諸問題　『チベットの歴史と社会』口絵写真ページの構成について　発表者：池田　巧
２月13日　チベット研究の諸問題　『チベットの歴史と社会』刊行記念ウェブセミナーの開催計画について
発表者：池田　巧
３月19日　チベット研究の諸問題　次年度人文研アカデミー：ウェブセミナーの開催方法について
司会：池田　巧
司会：柴田秀樹

近現代中国の制度とモデル

班長　村上　衛

研究期間　2020 年４月～2023 年３月（１年度目）

研究実施状況

本年度は３年計画の１年目にあたり，当初は中堅以上，夏からは若手の報告を中心に実施した。新型コロナウイルスの感染拡大により，当初はオンライ

ンで，感染縮小期にはオンラインとハイブリッドの併用で，計 15 回の研究会を行い，そのうち 1 回は海外（ロンドン）からの報告となった。対面の場合は学内の参加者が多数を占めたが，オンライン化により，国内のみならず，海外の参加者も増加し，先行する研究班の参加者数が 20〜25 人ほどであったのに対して，今年度の参加者数は平均で 40 人に達した。コメンテーターは専門を重視して遠方からの招聘も予定していたが，今年度は多くがオンライン参加となった。いずれの報告に関しても，遠方の参加者からコメントをいただけるのがオンライン開催の大きなメリットとなった。なお，本研究班と関連して，現代中国研究センターでは合評会を共催した（2020 年 8 月 22 日，岩井茂樹著『朝貢・海禁・互市　近世東アジアの貿易と秩序』）。

研究班員

所内：石川禎浩，岩井茂樹，籠谷直人，都留俊太郎，平岡隆二，古松崇志，瞿艶丹，陳瑶，李ハンキョル

学内：江田憲治（人間・環境学研究科），太田出（人間・環境学研究科），貴志俊彦（東南アジア地域研究研究所），小島泰雄（人間・環境学研究科）塩出浩之（文学研究科），鈴木秀光（法学研究科），高嶋航（文学研究科），秋田朝美（経済学研究科），巫靚（人間・環境学研究科），王怡然（人間・環境学研究科），王天馳（文学研究科），関藝蕾（文学研究科），呉舒平（法学研究科），黄崢崢（人間・環境学研究科），谷雪妮（文学研究科），小堀慎梧（文学研究科），徐璐（文学研究科），角屋敷直哉（人間・環境学研究科），張子康（文学研究科），趙嵩（法学研究科），比護遥（教育学研究科），梁鎮海（文学研究科），林淑美（国際高等教育院）

学外：安東強（中山大学歴史系），石川亮太（立命館大学経営学部），岩本真利絵（釧路公立大学経済学部），上田貴子（近畿大学文芸学部），易星星（兵庫県立大学経済学研究科），王艶文（京都府立大学文学研究科），大坪慶之（三重大学教育学部），岡本隆司（京都府立大学文学部），荻恵里子（京都府立大学大学院文学研究科），小野達哉（同志社大学），小野寺史郎（埼玉大学人文社会科学研究科），郭まいか（同志社大学グローバル・スタディーズ研究科），梶谷懐（神戸大学経済学研究科），片山剛（大阪大学・名誉教授），加藤雄三（専修大学法学部），金丸裕一（立命館大学経済学部），蒲豊彦（京都橘大学文学部），川西孝男（関西学院大学総合政策研究科），菊池一隆（愛知学院大学文学部），木越義則（名古屋大学経済学研究科），木村可奈子（滋賀県立大学人間文化学部），久保茉莉子（成蹊大学），久保田裕次（国士舘大学文学部），兒玉州平（山口大学経済学部），小林亮介（九州大学大学院比較社会文化研究院），坂井田夕起子（愛知大学国際問題研究所），城地孝（同志社大学文学部），城山智子（東京大学経済学研究科），園田節子（兵庫県立大学経済学部），瀧田豪（京都産業大学法学部），田口宏二朗（大阪大学文学研究科），陳来幸（兵庫県立大学経済学部），土肥歩（同志社大学文学部文化史学科），土居智典（長崎外国語大学外国語学部），富澤芳亜（島根大学教育学部），豊岡康史（信州大学人文学部），根無新太郎（京都府立大学），箱田恵子（京都女子大学文学部），浜田直也（神戸女子大学），平井健介（甲南大学経済学部），彭浩（大阪市立大学社会科学系研究院経済学研究科），彭鵬（中国歴史研究院近代史研究所），細見和弘（立命館大学経済学部），堀地明（北九州市立大学外国語学部），松村光庸，丸田孝志（広島大学大学院総合科学研究科），三田剛史（明治大学商学部），宮内肇（立命館大学文学部），村尾進（天理大学国際学部），村田雄二郎（同志社大学文学部グローバル・スタディーズ研究科），毛暁陽（間江学院歴史系），望月直人（大坂経済法科大学国際学部），本野英一（早稲田大学政治経　済学術院），森川裕貫（関西学院大学

文学部），山崎岳（奈良大学文学部），山本一（立命館大学文学部），吉田建一郎（大阪経済大学経済学部），鷲尾浩幸（北海道教育大学教育学部札幌校），森時彦（京都大学名誉教授）

研究実施内容

2020 年

5 月15日　「近現代中国の制度とモデル」班をはじめるにあたって　発表者：村上　衛
誰が人々を導くのか　世紀転換期の香港における死体遺棄をめぐって
発表者：小堀慎梧（文学研究科）
コメンテーター：帆刈浩之

5 月29日　Ideology and Institutions : a new interpretation and periodization of economic changes in Modern China 1840–1950　発表者：Debin Ma（一橋大学）
コメンテーター：木越義則（名古屋大学）

6 月12日　1920 年代上海周辺での渉外民事訴訟：特に破産処理と株主の有限責任に関連して
発表者：本野英一（早稲田大学）
コメンテーター：箱田恵子（京都女子大学）

6 月26日　近代長江中游船民与木帆船航孟此研究
発表者：陳瑶（腹門大学）
コメンテーター：太田　出（人間・環境学研究科）

7 月10日　民国期出版統計の復元：「民国図書数拠庫」の有用性を中心に
発表者：比護　遥（教育学研究科）
コメンテーター：楊韜（仏教大学）

10月 9 日　見逃す神話：1920 年代における中国のナショナリズムとジェンダー
発表者：羅亜妃（文学研究科）
コメンテーター：竹元規人（福岡教育大学）

10月23日　現代中国の中央集権制と党内コミュニケーション：中国共産党の「請示報告制度」を中心に（1948–1954 年）
発表者：周俊（早稲田大学）
コメンテーター：石川禎浩

11月 6 日　明清交替期における社会と政権：福建汀州府寧化県を中心に
発表者：梁鎮海（文学研究科）
コメンテーター：森　正夫（名古屋大学）

11月20日　19 世紀の東南アジア・中国間の貿易ダイナミクス：米・銀・為替の流通に着目して　発表者：小林篤史（東南アジア地域研究研究所）
コメンテーター：岸本美緒（東洋文庫）

12月 4 日　壬寅奇災下の災害救済：宣教師関連資料を手がかりに
発表者：土肥　歩（同志社大学）
コメンテーター：山本　真（筑波大学）

12月18日　米国宣教師 W・R・ランバスと中国 ― 清末上海からのグローバル布教とそのモデル
発表者：川西孝男（関西学院大学）
コメンテーター：土肥　歩（同志社大学）

2021 年

1 月22日　近現代中国の制度とモデル　日中戦争期における中国法学界
発表者：久保茉莉子（成蹊大学）
コメンテーター：高見澤磨（東京大学）

2 月 5 日　民国期における災害と救済景観
発表者：黄崢崢（人間・環境学研究科）
コメンテーター：堀地　明（北九州市立大学）

2 月19日　創刊から発達の道へ：在華日系漢字紙『盛京時報』が歩んできた最初の 20 年
発表者：徐璐（文学研究科）
コメンテーター：上田貴子（近畿大学）

3 月 5 日　蒲豊彦著『闘う村落 近代中国華南の

民衆と国家』合評会
発表者：高橋伸夫（慶応大学）
発表者：丸田孝志（広島大学）
発表者：都留俊太郎

東方文化学院京都研究所旧蔵漢籍の整理と研究

班長　矢木　毅

研究期間　2016年4月～2021年3月（5年度目）

研究実施状況

毎週水曜日，14時より16時まで。（4月中は休会。本年度はオンラインで開催）。前期は5月13日より7月29日まで（計12回）。後期は10月14日より2月3日まで（計15回）。通年で27回開催。本年度は集部別集類の漢籍を検討した。毎回の検討の成果は「典拠情報」としてまとめ，「全国漢籍データベース」にリンクさせた形でウェブ上に公開している。なお，関連する成果として『京大人文研蔵書印譜（四）』と題する図録（東方学資料叢刊第28冊）を東アジア人文情報学研究センターより刊行し，リポジトリ「紅」においても公開した。

研究班員

所内：矢木毅，永田知之，宮宅潔，古松崇志，高井たかね，藤井律之，福谷彬，瞿艶丹

学内：道坂昭廣（人間・環境学研究科）

研究実施内容

2020年

5月23日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：矢木　毅

5月27日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：矢木　毅

6月3日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：矢木　毅

6月10日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：宮宅　潔

6月17日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：宮宅　潔

6月24日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：宮宅　潔

7月1日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：宮宅　潔

7月8日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：高井たかね

7月15日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：高井たかね

7月22日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：高井たかね

7月29日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：高井たかね

10月14日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：永田知之

10月21日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：永田知之

10月28日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類南宋之属
発表者：永田知之

11月4日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類金元之属
発表者：福谷　彬

11月18日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類金元之属
発表者：福谷　彬

11月25日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類金元之属
発表者：福谷　彬

12月2日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類金元之属
発表者：藤井律之

12月9日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類金元之属

発表者：藤井律之

12月16日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類金元之属

発表者：藤井律之

12月23日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類金元之属

発表者：古松崇志

2021 年

1 月 8 日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類金元之属

発表者：古松崇志

1 月15日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類金元之属

発表者：古松崇志

1 月22日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類金元之属

発表者：宮宅　潔

1 月29日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類金元之属

発表者：宮宅　潔

2 月 3 日　東方文化学院京都研究所漢籍目録　集部別集類金元之属

発表者：宮宅　潔

漢籍リポジトリの基礎的研究

班長　ウィッテルン　クリスティアン

研究期間　2016 年 4 月－2021 年 3 月（5 年度目）

研究実施状況

今年度は漢籍リポジトリに 90 点の漢籍を追加した。利用者からの要望に応じて漢籍リポジトリ本体のファイル形式などの改善可能な点についての検討を行った。その結果，新しい機能と現行のリポジトリの両立を考慮して，これから実行可能な運営形態を検討した。そこから，基本的には漢籍リポジトリをそのまま運営し続ける上で，新しい形の XML 版に基づいて別途の API とインタフェースを立ち上げることが望ましいという結論を得た。今年度はその形式の基本的な枠組に必要なフォーマットを作成して，GitHub で公開した。

関連プロジェクトとしては「漢學文典」（通称 TLS，Thesaurus Linguae Sericae）の支援も継続した。具体的にはプリンストン大学の東アジア研究所（米国）とボーフム大学の中國博統文化研究センター（ドイツ）との共同研究で「漢學文典」の新しい共同研究・共同作業のためのウエブサイト（hxwd.org）の構築と実験運用をはじめた。

研究班員

所内：安岡孝一，古勝隆一，永田知之，白須裕之

学内：宮崎泉（文学研究科）

研究実施内容

2020 年

5 月12日　今年度の予定

5 月26日　次世代漢籍リポジトリに向けて（1）

6 月 9 日　次世代漢籍リポジトリに向けて（2）

6 月23日　Textual Communities & implementation of standoff markup

7 月14日　The concept of work in digital texts

10月13日　Details of KanripoX format

10月27日　KanripoX development（1）

11月24日　Japanese Buddhist Manuscripts（Gaetan Rappo）

12月 8 日　KanripoX development（2）

2021 年

1 月12日　Updates to KanripoX files

1 月26日　About the final report

秦代出土文字史料の研究　　班長　宮宅　潔

研究期間　2016 年 4 月－2021 年 3 月（5 年度目）

本年度の研究実施状況

里耶秦簡・岳麓簡の概要を紹介し，その内容や研究状況について意見を交換したうえで，会読を進めた。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により，四月初めより研究会をオンラインでの開催に切り替えた。それにより会読は途切れることなく進み，計画通り 3 月末までに 42 回の研究会を開催した。

研究班員

所内：藤井律之，古勝隆一，宮宅潔，目黒杏子，陳捷，李磊，魏永康，陳鳴，曹天江

学内：宗周太郎（文学研究科・博士課程），斎藤賢（文学研究科・博士課程），章瀟逸（人間・環境学研究科・博士課程）

学外：郭聡敏（立命館大学），佐藤達郎（関西学

院大学），角谷常子（奈良大学），鷹取祐司（立命館大学），土口史記（岡山大学），安永知晃（関西学院大学），畑野吉則（奈良文化財研究所）

本年度の研究実施内容

2020 年

4 月 3 日　岳麓簡会読　248-256
発表者：目黒杏子

4 月10日　岳麓簡会読　248-256
発表者：目黒杏子

4 月17日　岳麓簡会読　248-256
発表者：目黒杏子

4 月24日　岳麓簡会読　257-267
発表者：安永知晃（関西学院大学）

5 月 1 日　岳麓簡会読　257-267
発表者：安永知晃（関西学院大学）

5 月 8 日　岳麓簡会読　257-267
発表者：安永知晃（関西学院大学）

5 月15日　岳麓簡会読　257-267
発表者：安永知晃（関西学院大学）

5 月22日　岳麓簡会読　257-267
発表者：安永知晃（関西学院大学）

5 月29日　岳麓簡会読　268-275
発表者：章瀟逸
（人間・環境学研究科）

6 月 5 日　岳麓簡会読　268-275
発表者：章瀟逸
（人間・環境学研究科）

6 月15日　岳麓簡会読　268-275
発表者：章瀟逸
（人間・環境学研究科）

6 月19日　岳麓簡会読　268-275
発表者：章瀟逸
（人間・環境学研究科）

6 月26日　岳麓簡会読　268-275
発表者：章瀟逸
（人間・環境学研究科）

7 月 3 日　岳麓簡会読　268-275
発表者：章瀟逸
（人間・環境学研究科）

7 月10日　岳麓簡会読　276-283
発表者：佐藤達郎（関西学院大学）

7 月17日　岳麓簡会読　276-283
発表者：佐藤達郎（関西学院大学）

7 月31日　岳麓簡会読　276-283
発表者：佐藤達郎（関西学院大学）

9 月 4 日　岳麓簡会読　276-283
発表者：佐藤達郎（関西学院大学）

9 月11日　里耶秦簡会読　⑧925-⑧959
発表者：宮宅　潔

9 月18日　岳麓簡会読　276-283
発表者：佐藤達郎（関西学院大学）

9 月25日　里耶秦簡会読　⑧997-⑧1023
発表者：安永知晃（関西学院大学）

10月 2 日　岳麓簡会読　284-293
発表者：西　真輝（文学研究科）

10月16日　里耶秦簡会読　⑧997-⑧1023
発表者：安永知晃（関西学院大学）

10月23日　岳麓簡会読　284-293
発表者：西　真輝（文学研究科）

10月30日　里耶秦簡会読　⑧997-⑧1023
発表者：安永知晃（関西学院大学）

11月 6 日　岳麓簡会読　284-293
発表者：西　真輝（文学研究科）

11月20日　里耶秦簡会読　⑧1024-⑧1048
発表者：章瀟逸
（人間・環境学研究）

11月27日　岳麓簡会読　294-302
発表者：角谷　常子　（奈良大学）

12月 4 日　里耶秦簡会読　⑧1024-⑧1048
発表者：章瀟逸
（人間・環境学研究）

12月11日　岳麓簡会読　294-302
発表者：角谷常子　（奈良大学）

12月18日　里耶秦簡会読　⑧1024-⑧1048
発表者：章瀟逸
（人間・環境学研究）

2021 年

1 月 8 日　岳麓簡会読　303-312
発表者：宗周太郎（文学研究科）

1 月15日　里耶秦簡会読　⑧1049-⑧1073
発表者：西　真輝（文学研究科）

1月22日　岳麓簡会読　303-312
発表者：宗周太郎（文学研究科）
1月29日　里耶秦簡会読　⑧1049-⑧1073
発表者：西　真輝（文学研究科）
2月5日　岳麓簡会読　303-312
発表者：宗周太郎（文学研究科）
2月12日　岳麓簡会読　303-312
発表者：宗周太郎（文学研究科）
2月26日　里耶秦簡会読　⑧1049-⑧1073
発表者：西　真輝（文学研究科）
3月5日　岳麓簡会読　303-312
発表者：宗周太郎（文学研究科）
3月12日　里耶秦簡会読　⑧1073-⑧1109
発表者：佐藤達郎（関西学院大学）
3月19日　岳麓簡会読　313-324
発表者：宮宅　潔

龍門北朝窟の造像と造像記　　班長　稲本泰生

研究期間　2017年4月～2022年3月（4年度目）

研究実施状況

当班では龍門古陽洞所在の造像記約700件のうち，まず有年紀分を対応する造像とともに取り上げて確認・検討を進め，2018年末で全点の検討を完了した。2019年1月からは無紀年・無銘分も含めた全ての造像について，壁面のブロック単位で網羅的に再検討する作業を進め，2021年2月を以て外壁を含む全壁面の検討を完了した。当初は2017～2019年度の三年計画であったが，これまでの実績に鑑みて研究期間を二年間延長し，検討対象を古陽洞以外の北朝窟にも拡げて作業を継続するとともに，信頼できる資料集の公刊に向けた確認・編集作業に取り組んでいる。本年度はコロナ禍で4月・5月は休会となったが，6月末以降は基本的にオンライン，一部対面併用で研究会を再開した。造像・造像記を検討する通例の会に加え，佐藤智水氏が「古陽洞開堅期における造営の主体について」，檜山智美氏が「クチャの仏教石窟寺院と説一切有部の分派に関する考察」，田林啓氏が「中国の神異僧像をめぐって」と題して研究発表を行った。

研究班員

所内：岡村秀典，安岡孝一，向井佑介，倉本尚徳，高志緑

学内：内記理（文化財総合研究センター），檜山智美（白眉センター），アヴァンツィ・カルロッタ（大学院文学研究科）

学外：外山潔（京都市立芸術大学），齋藤龍一（大阪市立美術館），山名伸生（京都精華大学），大西磨希子（佛教大），石松日奈子（東京国立博物館），濱田瑞美（横浜美術大学），北村一仁（河南農業大），田林啓（白鶴美術館），高橋早紀子（愛知学院大学），苫名悠（大阪大谷大学），黄分（中国社会科学院），上枝いづみ（金沢大学），王玉人（大阪大学大学院），佐藤智水（龍谷大学客員教授（人文科学研究所非常勤講師））

本年度の研究実施内容

2021年

1月12日　古陽洞南壁下段・西壁北側の再検討
古陽洞南壁下段の再検討
発表者：向井佑介（京都大学）
古陽洞西壁北側の再検討
発表者：稲本泰生（京都大学）
2月9日　古陽洞外壁の再検討
発表者：稲本泰生（京都大学）
3月9日　中国仏教美術研究の最前線
クチャの仏教石窟寺院と説一切有部の分派に関する考察 ― 石窟の空間構成と壁画図像を手掛かりに
発表者：檜山智美（京都大学）
中国の神異僧像をめぐって ― 南北朝時代からの系譜
発表者：田林　啓（白鶴美術館）

前近代ユーラシア東方における戦争と外交

班長　岩井茂樹・古松崇志

研究期間　2018年4月～2023年3月（3年度目）

研究実施状況

研究テーマの「前近代ユーラシア東方における戦争と外交」について具体的に考察するための題材として，南宋時代の史書『三朝北盟会編』の会読を進めた。16回にわたって『三朝北盟会編』の会読をおこない，『中華再造善本』所収の中国国家図書館

（北京図書館）所蔵の明紗本を底本に，テキストの校訂・訳注作業を進め，巻九から巻十三までを読み終えた。

研究班員

所内：古松崇志，岩井茂樹，矢木毅，村上衛，高井たかね，福谷彬，齊藤茂雄，毛利英介

学外：飯山知保（早稲田大学文学学術院），井黒忍（大谷大学文学部），伊藤一馬（大阪大学大学院文学研究科），岩本真利絵（釧路公立大学），遠藤総史（大阪大学大学院文学研究科），小野達哉（同志社大学文学部），加藤雄三（専修大学法学部），木村可奈子（滋賀県立大学人間文化学部），小林隆道（神戸女学院大学文学部），承志（追手門学院大学基盤教育機構），城地孝（同志社大学文学部），武田和哉（大谷大学文学部），橋本雄（北海道大学文学研究科），濱野亮介（大谷大学文学部），藤本猛（京都女子大学文学部），藤原崇人（龍谷大学文学部），公田善之（広島大学文学研究科），古畑徹（金沢大学人間社会研究域），水越知（関西学院大学文学部），渡辺健哉（大阪市立大学文学研究科）

研究実施内容

2020 年

4 月14日　『三朝北盟会編』巻九会読
発表者：齊藤茂雄

4 月28日　『三朝北盟会編』巻九会読
発表者：濱野亮介

5 月12日　『三朝北盟会編』巻九会読
発表者：藤原崇人

5 月26日　『三朝北盟会編』巻九会読
発表者：武田和哉

6 月 9 日　『三朝北盟会編』巻十会読
発表者：伊藤一馬

6 月23日　『三朝北盟会編』巻十会読
発表者：矢木　毅

7 月 7 日　『三朝北盟会編』巻十会読
発表者：高井たかね

7 月21日　『三朝北盟会編』巻十一会読
発表者：古松崇志

10月13日　『三朝北盟会編』巻十一会読
発表者：毛利　英

10月27日　『三朝北盟会編』巻十一会読
発表者：井黒　忍

11月24日　『三朝北盟会編』巻十二会読
発表者：城地　孝

12月 8 日　『三朝北盟会編』巻十二会読
発表者：福谷　彬

12月22日　『三朝北盟会編』巻十二会読
発表者：藤本　猛

2021 年

1 月12日　『三朝北盟会編』巻十三会読
発表者：小野達哉

1 月26日　『三朝北盟会編』巻十三会読
発表者：岩本真利絵

2 月 9 日　『三朝北盟会編』巻十三会読
発表者：遠藤総史

3 世紀東アジアの研究　　班長　森下章司

研究期間

2018 年 4 月～2022 年 3 月（3 年度目）

研究実施状況

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により，4 月から 6 月の研究会は休会とし，7 月から研究会を再開した。研究会は，原則として分館大会議室での対面研究会と Zoom による中継とを併用したハイブリッド形式を採用し，合計 8 回を実施した。班員による研究報告では，後漢から魏晋のころに生じた墓制の変革や車騎行列の変化に着目し，考古・図像資料と出土文字資料・文献史料をもとに 3 世紀の中国における社会的・制度的変化を明確にしようとした。また，近年，曹操高陵や洛陽西朱村曹魏大墓から出土した石牌に着目し，いくつかの石牌銘文の釈読と考証を試みるとともに，その研究状況の把握と基礎的な整理をおこなった。そのほか，高句麗をはじめとする 3～4 世紀東北アジア地域の状況について，文献史料と考古資料の立場からそれぞれ検討会を実施し，さらに外部から講師を招いて東アジアの動物考古学・機織技術・葬具などをテーマに最新の研究成果を講演してもらい，中国・朝鮮半島・日本列島の研究状況について知見を深めた。

研究班員

所内：向井佑介，岡村秀典，稲本泰生，宮宅潔，古勝隆一，古松崇志，藤井律之，高井たかね，目黒杏子

学内：吉井秀夫（文学研究科），下垣仁志（文学研究科），坂川幸祐（文学研究科）

学外：長友朋子（立命館大学），井上直樹（京都府立大学），諫早直人（京都府立大学），金宇大（滋賀県立大学），田中一輝（立命館大学），大谷育恵（金沢大学），山本堯（泉屋博古館），馬渕一輝（黒川古文化研究所）

本年度の研究実施内容

2020 年

7 月10日　漢魏の墓制変革：近年における曹魏大型墓の発見と関連するいくつかの問題
発表者：向井佑介
（京都大学人文科学研究所）

10月30日　紫綬について
発表者：森下章司（大手前大学）

11月13日　遼陽と高句麗の壁画墓にみえる車騎行列　発表者：岡村秀典
（京都大学人文科学研究所）

11月27日　曹魏と高句麗：高句麗遠征と当該期の高句麗王系
発表者：井上直樹（京都府立大学）

12月11日　日韓の動物考古学：日韓の卜骨と犬骨の比較研究を前提に
発表者：宮崎泰史
（大阪府立狭山池博物館）

2021 年

1 月22日　日本列島における木槨の受容と展開
発表者：岡林孝作
（奈良県立橿原考古学研究所）

2 月 5 日　古代日本とアジア諸国の機織技術
発表者：東村純子（福井大学）

3 月 5 日　馬具からみた 3・4 世紀の東北アジア：慕容鮮卑と高句麗を中心に
発表者：諫早直人（京都府立大学）

前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会

班長　稲葉　穣

研究期間

2019 年 4 月～2022 年 3 月（2 年度目）

研究実施状況

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い，対面式での研究会を開くことが困難となった。そこで基本的にオンラインにて，課題としている資料である 11 世紀の Fami によるペルシア語地方史『ヘラート史』の新発見写本の会読を中心として研究会を運営した。オンラインでの開催は史料会読にとっては利点もあり（各参加者が自分の研究室にある研究資源を随時利用できるなど），予想以上にうまく運営できたと考えている。一方，研究発表の方はオンラインもしくはハイブリッドでの開催は一回に留まっているが，これは会場までの移動にかかるリスクや，ハイブリッド型の研究会を行うための環境整備が不十分であることなどから，改善の余地は大いにあると考えている。

研究班員

所内：船山徹，稲本泰生，中西竜也，宮本亮一

学内：檜山智美（白眉センター），井谷鋼造（大学院文学研究科），吉田豊（文学研究科），帯谷知可（東南アジア地域研究研究所），内記理（文学研究科），角田哲朗（文学研究科），今松泰（アジア・アフリカ地域研究研究科），慶昭蓉（白眉センター）

学外：大津谷馨（リエージュ大学），川本正知（奈良大学），和田郁子（岡山大学），入澤崇（龍谷大学），小野浩（京都橘大学），真下裕之（神戸大学），伊藤隆郎（神戸大学），岩井俊平（龍谷大学），井上陽（相愛大学），影山悦子（奈良文化財研究所），上枝いづみ（金沢大学），杉山雅樹（京都外国語大学），田中悠子（ロンドン大学），Erika Forte（Austrian Academy of Sciences），小倉智史（東京外国語大学）

研究実施内容

2020 年

5 月 8 日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　ヘラート史会読

発表者：角田哲朗
（京都大学大学院文学研究科）
発表者：稲葉　穣

5月22日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　ヘラート史会読
発表者：稲葉　穣

6月12日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　ヘラート史会読
発表者：稲葉　穣

6月26日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　ヘラート史会読
発表者：稲葉　穣

7月10日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　タルマシリーン・ハンの時代 ― チャガタイ・ウルスのイスラム化をめぐって
発表者：川本正知（奈良大学）

7月26日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　国際ワークショップ　Remains and Memories of Buddhists in Islamizing West Asia
コメンテーター：稲葉　穣

9月25日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　ヘラート史会読
発表者：稲葉　穣
発表者：小倉智史（東京外国語大学）

10月23日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　ヘラート史会読
発表者：小倉智史（東京外国語大学）

11月14日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　パンジャーブ北部土着集団の千年
発表者：小倉智史（東京外国語大学）

11月27日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　ヘラート史会読
発表者：中西竜也

12月11日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　ヘラート史会読
発表者：中西竜也
発表者：稲葉　穣

2021年

1月22日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　ヘラート史会読
発表者：稲葉　穣

2月12日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　ヘラート史会読
発表者：角田哲朗
（京都大学大学院文学研究科）

2月26日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　ヘラート史会読
発表者：杉山雅樹（京都外国語大学）

3月26日　前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会　ヘラート史会読
発表者：川本正知（奈良大学）

20 世紀中国史の資料的復元　　班長　石川禎浩

研究期間　2019年4月－2022年3月（2年度目）

研究実施状況

隔週金曜午後に研究班例会を開催することを中心に活動を進めた。班員は30数名，毎回の研究班例会の出席者は20名程度であった。新型コロナウイルスの感染拡大のため，オンラインあるいはハイブリッド方式による開催となったが，幸い平常時と同様の規模・質を維持することができた。特にオンライン開催であることをいかして，東京で活躍する複数の研究者による積極的な参加を得られたのは収穫であった。2020年度に開催した例会は17回を数え，毎回事前にレジュメを班員に配布し，またコメンテーターをつけて，専門的見地から議論を深められるよう工夫した。研究班では，まず報告者が1時間半程度の報告を行ったあと，コメンテーターが30分程度の批評を加え，その上で全体討論を実施するという形式を取った。報告用レジュメを事前に班員に配布していることもあり，議論が活発に行われた。また，複数の外国人研究者・院生（主として中華人民共和国出身）が継続的に参加していることも本研究班の特色であり，彼らとの討論を通じて，中国の近現代史関連の基本的な文献や資料集の成り立ちについての理解をいっそう深めることができた。資料的復元として，注目すべき研究・対象としては，内山完造『花甲録』や，農村部における工作の状況を

伝える『喬欽起工作筆記』などが俎上にあげられ，それらを資料として扱う場合の問題点や注目点が提示された。また，中国共産党史にかかわる「若干の歴史問題に関する決議」や「国家構成員」概念など，従来の研究蓄積の前提を問い直す試みも行われた。さらに，前身の研究班の成果である『毛沢東に関する人文学的研究』について２度の合評会を開催，８名の評者によるコメントを得て，中国現代史研究の蓄積の継承・深化の道筋を探った。

研究班員

所内：岩井茂樹，村上衛，福家崇洋，漆麟，王剛，郭まいか

学内：江田憲治（人間・環境学研究科），瞿艶丹（文学研究科），谷雪妮（文学研究科），高嶋航（文学研究科），太田出（人間・環境学研究科），比護遥（教育学研究科），貴志俊彦（東南アジア地域研究研究所），李ハンキョル（文学研究科），秋田朝美（経済学研究科）

学外：韓燕麗（東京大学），菊池一隆（愛知学院大学），島田美和（慶應義塾大学），鄒燦（大阪大学），瀬戸宏（摂南大学名誉教授），瀬辺啓子（佛教大学），田中仁（大阪大学），谷川真一（神戸大学），団陽子（神戸大学），都留俊太郎（同志社大），土肥歩（同志社大），中村元哉（東京大学），丸田孝志（広島大学），三田剛史（明治大学），水羽信男（広島大学），宮内肇（立命館大学），森川裕貫（関西学院大学），山崎岳（奈良大学），楊韜（佛教大学），林礼釗（大阪大学）

研究実施内容

2020 年

５月８日　毛沢東時代の読書規範 ― 伝統からの離脱と回帰

発表者：比護　遥（教育学研究科）

コメンテーター：水羽信男（広島大学）

５月22日　20 世紀中国の政治・思想史研究を発展させるための出版政策史研究 ―『中華人民共和国出版史料』の活用

発表者：中村元哉（東京大学）

コメンテーター：瀬戸　宏（摂南大学）

６月５日　『毛沢東に関する人文学的研究』合評会（1）

毛沢東と胡適

発表者：森川裕貫（関西学院大学）

毛沢東と巨大水利建築 ― 1950 年代の官庁ダムと十三陵ダムを中心に

発表者：島田美和（慶應義塾大学）

６月19日　『毛沢東に関する人文学的研究』合評会（2）

政治家・芸術家：1940 年代の延安における全体主義芸術の確立

発表者：漆麟（人文科学研究所）

文化大革命と毛沢東の水泳

発表者：高嶋　航（文学研究科）

７月３日　史料としての『花甲録』― 特に戦時期の検証

発表者：金丸裕一（立命館大学）

コメンテーター：谷雪妮（文学研究科）

７月17日　『劉少奇派』とは何であったのか

発表者：谷川真一（神戸大学）

コメンテーター：林礼釗（大阪大学）

10月２日　『喬欽起工作筆記』から見る現代中国政治の転換

発表者：田中　仁（大阪大学）

コメンテーター：河野　正（東京大学）

10月16日　『台湾之農具』と帝国の視角

発表者：都留俊太郎（人文科学研究所）

コメンテーター：菊地　暁（人文科学研究所）

10月30日　中国共産党が使用する国家構成員の概念についての歴史的検討

発表者：和田英男（大阪大学）

コメンテーター：谷川真一（神戸大学）

11月13日　上海市檔案館所蔵史料から考えるある「民族資産階級」の軌跡（1949-1965）

発表者：水羽信男（広島大学）
コメンテーター：江田憲治
（人間・環境学研究科）

11月27日　橘樸の人物像の再構成：大正知識人，民族誌家，社会民主主義者
発表者：谷雪妮（文学研究科）
コメンテーター：福家崇洋
（人文科学研究所）

12月11日　若干の歴史問題に関する決議に関する若干の考察
発表者：石川禎浩（人文科学研究所）
コメンテーター：小野寺史郎
（埼玉大学）

2021 年

1 月15日　中華人民共和国成立初期の復員軍人と栄誉軍人模範 ―「栄軍旗幟」張樹義の物語と基層革命関係者集団
発表者：丸田孝志（広島大学）
コメンテーター：森川裕貫
（関西学院大学）

1 月29日　林彪派将軍回想録の資料価値：邱会作回憶録を中心に
発表者：瀬戸　宏（摂南大学）
コメンテーター：鄭成（早稲田大学）

2 月12日　日独合作映画『新しき土』の中国上映騒動について：民国外交部檔案を手がかりに
発表者：楊韜（仏教大学）
コメンテーター：韓燕麗（東京大学）

2 月26日　中華人民共和国初期における肺結核医学資料の編纂と出版（1949-1957）
発表者：瞿艶丹（人文科学研究所）
コメンテーター：飯島　渉
（青山学院大学）

3 月12日　ふたたび，「路線」について
発表者：江田憲治
（人間・環境学研究科）
コメンテーター：李ハンキョル
（文学研究科）

古典中国語のコーパスの研究　　班長　安岡孝一

研究期間　2020 年 4 月～2023 年 3 月（1 年度目）

研究実施状況

『禮記』の Universal Dependencies コーパスを完成し，つづいて『十八史略』の Universal Dependencies コーパスに着手した。これらのコーパスと，過去に製作した『孟子』『論語』コーパスを合わせ，カレル大学との国際協力により，Universal Dependencies 2.6（2020 年 5 月 15 日リリース）および Universal Dependencies 2.7（2020 年 11 月 15 日リリース）として，WWW で公開した。

これらの古典中国語コーパスをもとに，古典中国語形態素解析エンジン「MeCab-Kanbun」および古典中国語係り受け解析エンジン「UD-Kanbun」の解析精度を上げ，PyPI から python3 モジュールとして公開した。また，スタンフォード大学との国際協力により，多言語係り受け解析エンジン「Stanza」に，古典中国語モジュールを実装した。さらに，カレル大学との国際協力により，多言語係り受け解析 API「UDPipe 2」にも，古典中国語モジュールを実装中である。

研究班員

所内：池田巧，ウィッテルン　クリスティアン，守岡知彦，白須裕之

学外：山崎直樹（関西大学外国語学部），二階堂善弘（関西大学文学部），師茂樹（花園大学文学部），鈴木慎吾（大阪大学言語文化研究科）

研究実施内容

2020 年

4 月10日　MeCab-Kanbun と UD-Kanbun
4 月24日　研究班活動方針
5 月 8 日　UD-Chinese の試作
5 月22日　Universal Dependencies 2.6 リリース
6 月 5 日　『禮記』Universal Dependencies 化完了
6 月19日　Universal Dependencies Workshop
7 月 3 日　『An Advanced Introduction to Semantics : A Meaning Text Approach』
7 月17日　Enhanced Universal Dependencies
9 月18日　『形態素解析部の付け替えによる近代

日本語（旧字旧仮名）の係り受け解析』
10月２日　CoNLL-U SVG Editor RtoL
10月16日　変体漢文の XPOS を UniDic 品詞にする
11月６日　『Is POS Tagging Necessary or Even Helpful for Neural Dependency Parsing?』
11月20日　Universal Dependencies 2.7 リリース
12月４日　『Universal Dependencies v2: An Evergrowing Multilingual Treebank Collection』
12月18日　じんもんこん:-)2020　報告
2021 年
１月15日　COMBO-pytorch と UniDic-COMBO
３月５日　東洋学へのコンピュータ利用

北朝石窟寺院の研究 II　　班長　岡村秀典

研究期間　2020 年４月～2023 年３月（1 年度目）

研究実施状況

前の研究班に引きつづき中国山西省大同市に所在する雲岡石窟の原報告（水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』全十六巻三二冊，一九五一～一九五六年）の図版解説を会読しながら，関連写真の整理を進めた。今年度は京都大学人文科学研究所・中国社会科学院考古研究所編『雲岡石窟』第二〇巻（科学出版社東京，二〇一七年）の研究成果をもとに，原報告の第十五巻西方諸洞について検討した。共同研究に関連した公表実績としては，岡村秀典著・徐小淑訳『雲岡石窟的考古学研究』（四川人民出版社，二〇二一年，原著『雲岡石窟の考古学遊牧国家の巨石仏をさぐる』京大人文研東方学叢書 3，臨川書店，二〇一七年）および石松日奈子著・王雲訳「雲岡石窟的皇帝大仏一従鮮卑王到中国皇帝」（『故宮博物院院刊』二〇二一年第一期，原著「雲岡石窟の皇帝大仏一鮮卑王から中華皇帝」『國華』一四五一号，二〇一六年）がある。

新型コロナウイルス感染症の拡大により，研究会は Zoom により共同研究室でのオンサイトとオンラインのハイブリッド形式で実施した。オンサイトでは参加のむずかしい中国や東京など遠隔地の研究者がオンラインで参加できたのは意義深いことであった。

研究班員

所内：岡村秀典，安岡孝一，稲本泰生，向井佑介，檜山智美，倉本尚徳，常鉦熙

学内：内記理（文化財総合研究センター），折山桂子（文学研究科）

学外：高橋早紀子（愛知学院大学），外山潔（泉屋博古館），齋藤龍一（大阪市立美術館），山名伸生（京都精華大学），大西磨希子（佛教大学），石松日奈子（清泉女子大学），濱田瑞美（横浜美術大学），佐藤智水（龍谷大学），田林啓（白鶴美術館），上枝いづみ（金沢大学），高志緑（大阪大学），王旺人（大阪大学）

研究実施内容

2020 年
10月６日　雲岡石窟西端諸洞　発表者：岡村秀典
10月20日　雲岡石窟西端諸洞　発表者：岡村秀典
11月17日　雲岡石窟西端諸洞　発表者：岡村秀典
12月１日　雲岡石窟西端諸洞　発表者：岡村秀典
2021 年
１月19日　雲岡石窟西端諸洞　発表者：岡村秀典

中国在家の仏教観：唐道宣撰『広弘明集』を読む

班長　船山　徹

研究期間　2020 年４月～2024 年３月（1 年度目）

研究実施状況

昨年は，六朝隋唐時代の知識人や庶民の仏教を知るため，唐の道宣撰『広弘明集』巻 26 に収める以下の文献を会読し，1）漢語原典の校訂本・2）現代日本語訳・3）重要原語の語注を作成した。― 南斉の周顧「典何胤書」，梁の武帝「断殺絶宗廟犠牲詔」，顔之推「誡殺家訓」，梁武帝「断酒肉文」。このうち南斉の周顧の書は，仏教では生き物を殺さないことを実践するので肉食してはいけないことを説く。梁の武帝の「断殺絶宗廟犠牲詔」と同じく武帝の「断酒肉文」は，飲酒と肉食が過ちであることを，在家者である皇帝が出家者に説く内容である。その内容から，当時の出家者は男女を問わず肉食していたという実態を描き，武帝はあるべき仏教を実現すべく，

肉食と飲酒の過から逃れる打開策を主張する。顔之推の文も基本的に同じ趣旨である。いずれも5〜6世紀の在家仏教徒であるが，彼らにとって菜食主義は宗教観と生命観に根ざすものであることが様々な角度から説明されており，在家仏教観の大きな一面を浮き彫りにする資料として意義がある。今年度は梁の武帝「断酒肉文」の残りの部分を読了する。この文献は，内容も意義深いが語彙の点からも6世紀前半の生きた語彙が見られ，仏教に関する制度史の資料ともなる。今年度の研究班回数は14回。

研究班員

所内：船山徹，稲本泰生，稲葉穣，ウィッテルンクリスティアン，古勝隆一，中西竜也，石垣明貴杞，李瑣

学内：趙ウニル（大学院文学研究科（非常勤講師）），中村慎之介（文学研究科（院生）），上島享（文学研究科）

学外：桐原孝見（龍谷大学），中西久味（新潟大学），松岡寛子（仏教伝道教会），村田みお（近畿大学），中西俊英（東大寺），河上麻由子（奈良女子大学），山田周（京都府立大学）

研究実施内容

2020年

5月29日　会読：周顧「典何胤書」
発表者：船山　徹

6月19日　会読：梁武帝「断殺絶宗廟犠牲詔」
発表者：河上麻由子

7月3日　会読：顔之推「誡殺家訓」
発表者：中村慎之介

9月18日　会読：梁武帝「断酒肉文」(1)
発表者：古勝隆一

10月2日　会読：梁武帝「断酒肉文」(2)
発表者：魏藝

10月16日　会読：梁武帝「断酒肉文」(3)
発表者：趙ウニル

10月30日　会読：梁武帝「断酒肉文」(4)
発表者：中西俊英

11月20日　会読：梁武帝「断酒肉文」(5)
発表者：船山　徹

12月4日　会読：梁武帝「断酒肉文」(6)
発表者：久永昂央

2021年

1月15日　会読：梁武帝「断酒肉文」(7)
発表者：倉本尚徳

1月29日　会読：梁武帝「断酒肉文」(8)
発表者：船山　徹

2月19日　会読：梁武帝「断酒肉文」(9)
発表者：ウィッテルンクリスティアン

3月5日　会読：梁武帝「断酒肉文」(10)
発表者：河上麻由子

個人研究

人文学研究部

近世社会解体過程の研究　岩城　卓二
近代西洋音楽史　岡田　暁生
戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク　籠谷　直人
イギリス・アイルランド近現代史　小関　隆
技術・自然・（ポスト）現代性の思想 ― 哲学的探求　佐藤　淳二
近代天皇制の文化史的研究　高木　博志
近代日本美術と西洋　高階絵里加
人種・エスニシティ論　竹沢　泰子
精神分析的知の思想史的位置づけ　立木　康介
西アフリカと南アジアの宗教，憑依，間身体性　石井　美保
近代トランスコーカサス(特にグルジア)における匪賊　伊藤　順二
近現代日本の社会史，思想史，技術史　KNAUDT, Till
東アジアにおける生命科学と「自然」　瀬戸口明久
〈非人間〉の歴史と記憶の存在論　直野　章子
近現代日本の社会運動・社会思想　福家　崇洋
農業史の再構築　藤原　辰史
フランス象徴主義と文学的モデルニテ　森本　淳生
皇室の土地所有に関する歴史的研究　池田さなえ
近代日本民俗誌システムの研究　菊地　暁
啓蒙と文学 ― アドルノ美学における「人間性」の

位置づけ ―　　藤井　俊之

東方学研究部

先秦時代の金文　　浅原　達郎
川西走廊の漢蔵諸語の記述研究　　池田　巧
中国共産党史の研究　　石川　禎浩
イスラーム東漸史の研究　　稲葉　穣
東アジア仏教美術史の研究　　稲本　泰生
近代中国の財政と社会　　岩井　茂樹
仏教研究知識ベース ― 禅仏教を例として
WITTERN, Christian
古代中国の考古学研究　　岡村　秀典
中央アジア東部の仏教文化　　FORTE, Erika
インド・中国における仏教の学術と実践
船山　徹
秦漢制度史の研究　　宮宅　潔
高麗官僚制度研究　　矢木　毅
文字コード理論　　安岡　孝一
六朝隋唐仏教史の研究　　倉本　尚徳
中国注釈学史研究　　古勝　隆一
中国イスラームの研究　　中西　竜也
中国中世近世の文学理論　　永田　知之
東アジア伝統科学の研究　　平岡　隆二
10～13 世紀ユーラシア東方における王朝間関係の研究　　古松　崇志
歴史考古学的方法にもとづく中国文化研究
向井　佑介
近代華南沿海の社会経済制度の変容　　村上　衛
東方学における対象の論理学的研究　　白須　裕之
中国家具とその使用に関する研究　　高井たかね
20 世紀台湾農業経済の変容と自治・自律
都留俊太郎
南宋期道学の経書解釈　　福谷　彬
中国古代中世の官制史　　藤井　律之
東西資料によるモンゴル時代の文化交流と諸制度の研究　　宮　紀子
文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究
守岡　知彦

事業概況

・Kyoto Lectures 2020
2020年 4 月22日（オンライン上で開催）
Gesaku Literati and Early Meiji Print Culture: Remaking Popular Culture for the Masses
講演者：Alistair Swale （カンタベリー大学）

・Kyoto Lectures 2020 on Zoom
2020年 5 月27日（Zoom で開催）
Japan's Ocean Borderlands: Nature and Sovereignty
講演者：Paul Kreitman（コロンビア大学）

・人文研アカデミー：緊急リレートーク：ブラック・ライブズ・マター運動の背景と課題
2020年 6 月21日（Zoom で開催）
NHK『これでわかった！世界のいま』要望書騒動 ― 日本での課題 ―　　貴堂　嘉之（一橋大学）
暴力と搾取の歴史 ― 人種ステレオタイプの視点から　　坂下　史子（立命館大学）
リベラルたちの刑罰国家と BLM の挑戦
藤永　康政（日本女子大学）
他人事ではない～日本における黒人差別のリアリティ　　ジョン・G・ラッセル（岐阜大学）
コメンテーター：有光　道生（慶應義塾大学），キンバリー・サンダース（ハーヴァード大学大学院博士課程・早稲田大学訪問研究員）
司会：竹沢　泰子

・Kyoto Lectures 2020 on Zoom
2020年 6 月26日（Zoom で開催）
Early Meiji "Accounts of Prosperity": The Making of an Urban Literary Canon
講演者：Gala Maria Follaco（ナポリ東洋大学）

・Kyoto Lectures 2020 on Zoom
2020年 7 月29日（Zoom で開催）
Animal Shape-Shifters from Japanese Folktales to

North-American Fiction
講演者：Luciana Cardi（大阪大学）

・人文研アカデミー 2020 『環太平洋地域の移動と人種 統治から管理へ，遭遇から連帯へ』合評会
2020年 8 月24日（Zoom で開催）
評者：飯島真里子（上智大学），
貴堂　嘉之（一橋大学），
津田　浩司（東京大学）

・北白川 EFEO サロン 2019-2020　日本における信仰と「知」のはざま
2020年 9 月25日
於　フランス国立極東学院京都支部（同時に Zoom で配信）
室町時代の密教と現世利益：茶枳尼天曼荼羅をめぐって
講演者：ガエタン・ラポー
（人文科学研究所白眉特定准教授）

・Kyoto Lectures 2020 on Zoom
2020年 9 月28日（Zoom で開催）
Articulating Inner Dharma: The Development of the “Five Viscera Mandala” in Japanese Esoteric Buddhism
講演者：Takahito Kameyama
（京都大学／龍谷大学）

・人文研アカデミー 2020　連続セミナー『秦帝国の実像 ― 同時代資料が語る始皇帝の時代』
2020年10月 1 日，10月 8 日，10月15日，10月22日（Zoom で開催）
10月 1 日（木）　秦の「法治」とその実情
宮宅　　潔
10月 8 日（木）　秦帝国の情報技術
畑野　吉則（奈良文化財研究所アソシエイトフェロー）
10月15日（木）　皇帝と祭祀
目黒　杏子（人文科学研究所非常勤研究員）
10月22日（木）　秦帝国を支えた馬
菊地　大樹（総合研究大学院大学特別研究員）

・オンライン公開シンポジウム『〈ポスト=ヒューマン〉の人文学　Les Humanités « post-humaines »』
2020年11月14日（Zoom で開催）
イントロダクション ―〈ノン=ヒューマン〉から〈ポスト=ヒューマン〉へ　森本　淳生
ポスト=ヒューマニズムと文体論
ジル・フィリップ（ローザンヌ大学）
非人間の詩学 ― オルテガ・イ・ガセット「芸術の非人間化」からメルロ=ポンティ「制度化」まで
塚本　昌則（東京大学）
世界の脆さの只中での post-humanities：川内倫子の写真実践とティモシー・モートンのエコロジー思考をめぐって　篠原　雅武（京都大学）

・北白川 EFEO サロン 2019-2020　日本における信仰と「知」のはざま～中世・近世・近代を中心に～
2020年11月27日
於　フランス国立極東学院京都支部（同時に Zoom で配信）
京坂キリシタン事件の主要人物 ― 入信の動機と宗教活動を中心に ―
講演者：宮崎ふみ子
（恵泉女学園大学名誉教授）

・人文研アカデミー シンポジウム「抑圧されたものの痕跡を求めて／辿って ― 記憶の存在論と歴史の地平 II」
2020年12月 5 日（Zoom で開催）
「ありえない」出来事の行方 ― 原爆の記憶と性暴力の記憶　直野　章子
地を這うものたちの歴史 ― 断絶の記憶から
柿木　伸之（広島市立大学）
討論者：冨山　一郎（同志社大学），立木　康介

・オンライン公開シンポジウム『「日本の伝統文化」を問い直す』
2021年 1 月14日（Zoom で開催）

漢字圏古医籍の定量・比較研究 ― その異・同と社会経済背景　　真柳　誠（茨城大学名誉教授）
日本絵画の向こう側 ― 中国絵画史からの視点
宮崎　法子（実践女子大学文学部教授）
異文化として日本を眺める ― ヨーロッパ近世の眼差しとキリシタン時代の布教活動
シルヴィオ　ヴィータ
（京都外国語大学外国語学部教授）
座談会　　真柳　誠，宮崎　法子，
シルヴィオ　ヴィータ
司会：重田　みち（共同研究『「日本の伝統文化」を問い直す』班長）

・Kyoto Lectures 2021 on Zoom
2021年２月12日（Zoom で開催）
Early Medieval Monks and their Patrons: The Cases of Butsugon and Shinjaku-bō
講演者：Alessandro Poletto（日本学術振興会）

・Kyoto Lectures 2021 on Zoom
2021年３月８日（Zoom で開催）
'Tommy Atkins' in Japan: Examining the British Garrison of Yokohama（1864-1875）through First Person Accounts
講演者：Thomas French（立命館大学）

・第 16 回 TOKYO 漢籍 SEMINAR『金（女真）と宋 ― 12 世紀ユーラシア東方の民族・軍事・外交』
2021年３月15日
於　一橋大学一橋講堂中会議場
開会挨拶　　稲葉　穣
『三朝北盟会編』を読む ― 亡国の史書　古松　崇志
北宋最強軍団とその担い手たち ― 澶淵の盟から靖康の変へ　　伊藤　一馬（大阪大学大学院文学研究科招へい研究員）
「女真」の形成 ― 東北アジア諸集団の興亡
井黒　忍（大谷大学文学部准教授）
司会：矢木　毅

・人文研アカデミーシンポジウム「狂い咲く，フーコー」
2021年３月27日（Zoom で開催）
コメンテータ：重田　園江（明治大学），
森元　康介（東京大学）

招へい研究員

・FUESS, Harald　ハイデルベルク大学教授
京都の「観光公害」
（文化連関研究客員部門）　受入教員　藤原准教授
期間　2020年８月11日～2020年11月10日

招へい外国人学者

・秦　樺林　浙江大学中国古代史研究所講師
日蔵古写本，秦漢簡牘
受入教員　永田准教授
期間　2019年５月６日～2020年５月５日
・劉　雅君　上海大学社会科学学部副教授
東アジア史の視点からみた漢唐時代の皇太子制度
受入教員　宮宅教授
期間　2019年７月31日～2020年７月30日
・陳　瑤　厦門大学人文学院歴史系・助理教授
中国近代長江中流域木造帆船航運業の研究
受入教員　村上准教授
期間　2019年８月22日～2020年８月21日
・方　艶　江蘇師範大学文学院教授
中日王権神話の比較研究
受入教員　岡村教授
期間　2019年10月21日～2020年10月20日
・張　葦航　上海中医薬大学科技人文研究院副教授
日本古医書研究
受入教員　平岡准教授
期間　2019年11月28日～2020年８月24日
・馬　茜　寧夏行政学院政治学教研部副教授
抗日戦争時期の日本の“回教工作”に関する研究
受入教員　中西准教授
期間　2019年12月１日～2020年11月30日

・李　磊　華東師範大学歴史学系副教授
秦漢六朝時代の東アジアにおける政治構造と天下概念
受入教員　宮宅准教授
期間　2019年３月５日～2020年８月４日

外国人共同研究者

・陳　鳴　華南農業大学人文与法学学院講師
秦漢『盗律』・『賊律』の研究
受入教員　宮宅教授
期間　2019年８月19日～2020年８月18日
・HAYASHI, John　ハーバード大学 PhD. Candidate
日本統治時代から戦後にかけての台湾における治水事業や衛生事業
受入教員　藤原准教授
期間　2019年９月15日～2020年４月22日
・赵　檬锡　ハイデルベルク大学 PhD. Candidate
東アジアにおける救荒作物に関する書籍の研究
受入教員　藤原准教授
期間　2019年10月７日～2020年８月20日
・PITTELOUD, Cyrian Janek　フランス国立極東学院 Research Assistant
近代日本における水質汚染と環境紛争について
受入教員　福家准教授
期間　2020年１月９日～2020年８月31日
・SCHAEFER, Charlotte Johanna　ハイデルベルク大学 PhD. Candidate
日本における自閉症者を初めとする精神障害者の雇用
受入教員　藤原准教授
期間　2020年１月14日～2020年６月30日
・RODRIGUES, Jamila Pacheco　バーミンガム大学 Visiting Lecturer
Shamanism through the body: yuta's women's shamanic narratives on embodied pain, collective wellbeing and spirit communication
受入教員　石井准教授
期間　2020年３月８日～2020年５月８日
・余　柯君　復旦大学博士後
金剛智，善無畏梵漢対音譜と漢語中古音の研究
受入教員　永田准教授
期間　2020年11月24日～2021年11月23日
・頼　霈澄　台湾大学文学院中国文学系博士候選人
晩明清初における僧詩選集の研究
受入教員　永田准教授
期間　2020年11月16日～2021年11月15日
・MARCEAU, Lawrence Edward　オークランド大学上級講師
近世日本における『イソップ寓話集』の受容
受入教員　稲葉教授
期間　2020年12月18日～2021年12月17日

外国人研究生

・石垣　章子
漢訳仏典として位置付けられた疑偽経典の成立と思想の系譜
受入教員　船山教授
期間　2018年４月１日～2021年３月31日
・馬　延輝
『儀礼』学研究
受入教員　古勝准教授
期間　2019年４月１日～2020年６月30日
・陳　瑞峰
中国佛教疑偽経敦煌寫本識語の研究
受入教員　船山教授
期間　2019年５月１日～2020年７月31日
・趙　芙蝶
人文科学とデジタル　デジタル人文プロジェクトユーザー指向のデザイン
受入教員　Wittern 教授
期間　2019年10月１日～2021年３月31日
・曹　天江
秦漢魏晋時代における「計校」事務の研究
受入教員　宮宅教授
期間　2019年10月１日～2020年12月22日
・Qianqing Huang
1920 年代，30 年代の日本における被差別部落

受入教員　竹沢教授
期間　2019年10月１日～2021年４月30日
・常　鈺熙
北宋時代における洛陽盆地の考古歴史学的研究
受入教員　岡村教授
期間　2019年10月１日～2020年９月30日
・朴　洙贊
高麗前期の王権
受入教員　矢木教授
期間　2020年４月１日～2020年８月31日
・高　楹楹
薩摩の海と徐海 ― 16C における硫黄島と浙江間の硫黄貿易を中心に ―
受入教員　岩井教授
期間　2020年４月１日～2021年３月31日
・陳　佩瑜
日本統治下の台湾における「博物」の概念：科学史上の台湾自然文学と「博物誌」
受入教員　永田准教授
期間　2020年10月１日～2021年１月31日
・胡　景南
陳致虚内丹思想の歴史源流についての研究
受入教員　古勝准教授
期間　2020年10月１日～2021年９月30日
・王　含元
中国北方青銅器文化の社会変動
受入教員　岡村教授
期間　2020年12月１日～2021年11月30日
・肖　文遠
日中比較の視点からみた暦書時間の近代化
受入教員　村上准教授
期間　2021年１月１日～2021年12月31日

短期交流学生

・陳　佩瑜
日本東洋史学の文脈：ドイツ歴史学から日本東洋学に至る歴史概念と「客観性」の構築
受入教員　永田准教授
期間　2020年４月８日～2020年７月７日

出　版　物

紀要
・人文学報　第115号（紀要第190冊）
2020年６月30日刊
・東方学報　95冊（紀要第191冊）
2020年12月25日刊
・人文学報　第116号（紀要第192冊）
2021年３月31日刊
・ZINBUN number51
2021年３月刊

研究報告その他

・東方學資料叢刊　第28冊　矢木毅編
2020年６月30日刊
・転換期中国における社会経済制度　村上衛編
2021年１月30日刊
・シナ=チベット系諸言語の文法現象４　繫聯言語と古態　長野泰彦，池田巧編
2021年３月20日刊
・敦煌寫本研究年報　第15號　高田時雄　主編　岩尾一史，永田知之　副編
2021年３月31日刊